

# 転機

FUKUOKA 2022



福岡青年会議所は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

# The Creed of Junior Chamber International

# JCI 綱領

We Believe :  
That faith in God gives meaning  
and purpose to human life;  
That the brotherhood of man  
transcends the sovereignty of nations;  
That economic justice can best be won  
by free men through free enterprise;  
That government should be of laws  
rather than of men;  
That earth's great treasure lies in  
human personality; and  
That service to humanity is the best  
work of life.

我々はかく信じる：  
「信仰は人生に意義と目的を与え  
人類の同胞愛は国家の主権を超越し  
正しい経済の発展は  
自由経済社会を通じて最もよく達成され  
政治は人によって左右されず法によって  
運営されるべきものであり  
人間の個性はこの世の至宝であり  
人類への奉仕が人生最善の仕事である」

<1947 年世界会議総会採択>

<1951 年一部追加>

---

## JCI Mission

To provide development opportunities  
that empower young people  
to create positive change.

## JCI ミッション

より良い変化をもたらす力を青年に与えるために  
発展・成長の機会を提供すること

<2008 年世界会議総会採択>

---

## JCI Vision

To be the leading global network of  
young active citizens.

## JCI ビジョン

若き能動的市民の主導的な  
グローバル・ネットワークになること

<2008 年世界会議総会採択>

---

## JC 宣言

日本の青年会議所は  
希望をもたらす変革の起点として  
輝く個性が調和する未来を描き  
社会の課題を解決することで  
持続可能な地域を創ることを誓う

---

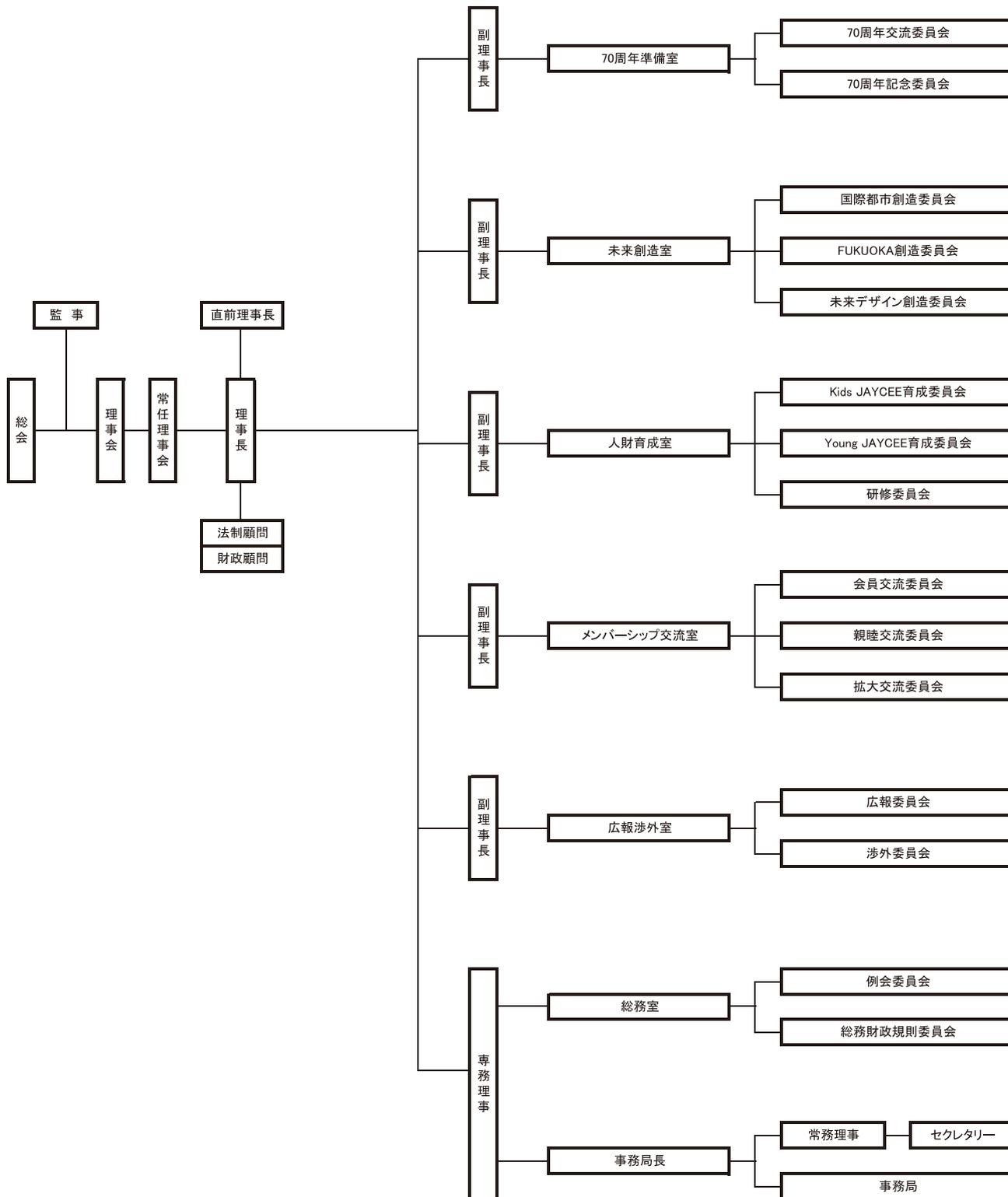
## 綱領

われわれ JAYCEE は  
社会的・国家的・国際的な責任を自覚し  
志を同じうする者 相集い 力を合わせ  
青年としての  
英知と勇気と情熱をもって  
明るい豊かな社会を築き上げよう

# 目次

2022年度	組織図	2
2022年度	役員	3
2022年度	理事長所信	4
2022年度	理事長、直前理事長、副理事長、専務理事、 監事、法制顧問、財政顧問、事務局長、 常務理事、セクレタリー	10
2022年度	室・委員会 基本方針・事業計画	12
2022年度	室・委員会 所務分掌規程	34
2022年度	委員会編成表	36
	青年会議所の概況	37
2022年度	日本JC、九州地区協議会、福岡ブロック協議会 組織図	38
	福岡青年会議所 歴代理事長	41
	出向外部団体一覧	42

一般社団法人 福岡青年会議所  
2022年度 組織図



# 一般社団法人 福岡青年会議所 2022年度 役員

理事長	西 嶋 聖	直前理事長	彌 登 義 明
副理事長	年 岡 裕 也 水 崎 浩 二 前 川 裕 貴 戸 嶋 太 一 中 原 壯 一 朗	監 事	中 野 雄 将 松 岡 将 史
専務理事	石 坂 泰 三	法 制 顧 問	橋 本 久 志 古 市 剛
		財 政 顧 問	金 海 安 州 之

常任理事	鍋 山 健 吾 堤 祐 一 郎 尾 本 勝 征 古 田 真 幸 石 崎 裕 一 原 翼 時 奥 膳 和 時	事務局長 70周年準備室長 未来創造室長 人財育成室長 メンバーシップ交流室長 広報渉外室長 総務室長
理 事	山 野 晋 田 原 義 也 三 浦 隆 祐 板 谷 和 樹 福 島 卓 中 之 蘭 匡 伸 親 川 広 志 榊 洋 章 安 田 拓 司 本 村 大 吉 田 豊 河 野 将 侑 竹 野 恵 介 田 雑 嘉 貢 田 崎 麗 一 朗  甲 木 正 孝 佐 伯 公 大 斎 藤 健 吾 阿 部 健 太 郎 立 部 真 康	70周年交流委員長 70周年記念委員長 国際都市創造委員長 FUKUOKA 創造委員長 未来デザイン創造委員長 Kids Jaycee 育成委員長 Young Jaycee 育成委員長 研修委員長 会員交流委員長 親睦交流委員長 拡大交流委員長 広報委員長 渉外委員長 例会委員長 総務財政規則委員長  (日本青年会議所 副議長) (日本青年会議所 副委員長) (九州地区協議会 委員長) (福岡ブロック協議会 委員長) (福岡ブロック協議会 委員長)
常務理事	上 田 久 紀 大 幡 則 文	

# 転機

FUKUOKA 2022



理事長 西嶋 聖

## 【はじめに】

今から約 80 年前、アメリカを皮切りに世界的に起こった深刻な経済危機がありました。多くの方が学校で学んだ「世界恐慌」と呼ばれるものです。この時アメリカでは、失業率が 25% を超えるほど深刻なものとなり、この危機を脱するべく立ち上がった一人のリーダーが、当時のアメリカ大統領、フランクリン・ルーズベルト氏でした。彼の新任演説で述べた言葉は今もなお語り継がれています。

「我々が恐るべき唯一のことは、恐れそのものである」

一昨年より襲いかかる新型コロナウイルス感染症拡大により、社会経済は世界的に大きな打撃を受けています。新型コロナウイルスによる長期間の社会情勢の混乱は、私たちの生活や仕事にまで大きな影響を与えており、政府からの様々な支援がありながらも、依然として経済回復への道には、様々な障壁が残っているのも事実です。

このような時、私たち JC メンバーはどうすべきでしょうか。  
JC 運動の始まりとされる、1949 年 9 月 3 日東京青年商工会議所設立総会で採択された「青年会議所設立趣意書」の冒頭にはこう書かれてあります。

「新日本の再建は我々青年の仕事である」

こんな時代だからこそ、今一度新日本の再建に向け立ち上がった JC 創始の原点に立ち戻り、我々の使命を全うするために、私たち自ら変化していこうではありませんか。

この状況からでも得られるものがあり、信念をもち、恐れず、あきらめず行動し続けることで必ず道は拓けるものだと考えます。JC こそが、未来を担うべき先駆けたリーダーとなり、私たちのまちを、さらにはこの日本を、牽引していかなければなりません。そのために、まずはしっかりと今ある物事に目を向け、常に前を向いて JC 活動をしていきましょう。

## 【青年会議所にとっての不易流行】

戦後 76 年がたち、経済復興も終わり成熟しているといっても過言ではないこの日本において、多くの経済団体も多数ある中、なぜ JC が唯一無二の団体であるのかを考える岐路に立たされているのではないかと感じます。

変わってはいけないものと変わらなくてはならないもの。  
「奉仕・修練・友情」を信念にもち「明るい豊かな社会をつくる」という目的をもった、利害関係のない組織であるという独自性はそのままに、あらたな手法でまちのための運動、ひとの成長のための活動を達成していくことが、これからの JC に求められていることです。

## 【70周年を転換期とした福岡青年会議所の運動の変革】

2020年初旬ごろから、コロナ禍によって余儀なくされた経験は、これまでの活動のやり方を考えさせられる一つの大きな機会となりました。そして、その機会こそがさらなる強みをみせる方法の一つとなり得ます。

JCI 福岡は 2023 年に創立 70 周年を迎えます。これを契機に JCI 福岡が運動を行っていく上で、まずは従来からあるネットワークの継続性を求めていく必要があります。

2019 年に経済産業省が、「21 世紀の公共の未来図」というレポートを発表していますが、その中で、今後の行政と民間の関係性は、「官民連携」から「官民共創」へとシフトすべきであると提言されています。

官が社会課題の提供を行い、民がそのソリューションを提供する。

あまねく人に対してしかサービスを提供できない行政であるがゆえ、本来であれば解決できなかったような限られたターゲットに対する課題等に関しては、JC が提言できる部分、提供できるものはまだまだ多くあるのではないのでしょうか。

今までは、年度ごと、委員会ごとに別々の担当者が各々の窓口に散発的に行っていた行政への訪問を、JC 側としての担当、役割を明確化し、行政の有する社会課題を定期的に収集する仕組みづくりを行っていくことが、今後の事業構築にとって必要です。

これまで行ってきた運動を振り返りながら、新しい入口と新しい出口に対して大胆なアプローチをもって取り組んでいただきたい。

## 【70周年を転換期とした福岡青年会議所の活動の変革】

コロナ禍において、ニューノーマルな活動様式を確立することが必要不可欠となった時代を迎え、次のアフターコロナ時代を迎えたときに、我々 JCI 福岡メンバーは、どのように活動していくのか。

今まで、汗をかきこの JCI 福岡の礎となつてこられたシニアメンバーの方々の想いを継承しつつも、時流に沿った活動を行う必要があります。

委員長の仕事とは、上司・部下という関係以上に、一人の人間として向き合い、悩みに寄り添い、ともに問題解決をする。そのような、ひととしての力が必要だと考えます。「集う」という JC の持つ最大の武器に制限がかかった今、そのマネジメントを駆使した活動様式への変革が必要です。膝を突き合わせ、酒を飲み交わしながら、多くの意見に耳を傾けることで自分を根本から見つめなおしていたことが難しくなっている中、WEB でその代用ができるのか、どこまでをリアルで突き詰めるのか、その線引きをより明確に行っていく必要があるのではないのでしょうか。

またメンバーの心持ちとして、JC の良さを実感できるにはその多くに関わってもらうことが大切です。従来の JC では、強制力と連帯感でその機会をもたせていましたが、これからは一人

ひとりの能動的な関わり方が必要になってきます。困難な世情の中、JC に心血を注ぐことは難しいことかもしれませんが、だからこそ人生において得られるものは今までよりも濃いものとなるでしょう。

コロナ禍を経験し、70周年を迎えようとしている今、JCI福岡創立50周年の時に記されていた『不易流行』という言葉を噛みしめ、時代に沿って残すべき伝統と変わらなくてはならないものがあります。

JCI福岡は、2010年に「アジア交流首都宣言」、2016年には「グランドデザイン FUKUOKA」という様々な提言をおこなってきました。

70周年を契機に大きく変わりゆく組織変革のため、FUKUOKAでの今まで以上の存在意義のため、次の80周年、その先の100周年へと続く持続可能な団体に向けた第1歩を我々の時代で踏み出していかななくてはならないと考えます。

そのためには持続可能な福岡のまちを創造するための、新たな提言を行うことが必要となります。また、ウィズコロナ、アフターコロナにおけるJCI福岡独自のカンファレンスガイドライン、活動指針を新たに策定することで、より活動をおこないやすくすることができるのではないのでしょうか。忘れてはならない「創始の精神」と、変わらなくてはならない今後の団体の活動指針を確立していき時代を捉えていくことが必要です。

## 【国際連携と FUKUOKA 連携】

JCの強みの一つである国際ネットワークは、コロナ禍において弱くなりつつあります。このような状況下だからこそできる関係性の再構築の手法を新たに考え、今後のJCI福岡のために新しい関係性を築いていただきたい。

JCI福岡の活動を現実化させるために必要なもの、JC運動を実践していくために必要なものは単独で活動を行うのではなく、行政や様々な外部団体と連携をするということです。そのためには外部との接点、連携をより強く持つ必要があります。

福岡のまちには、行政とのかかわりもさることながら、他団体が無数に存在しています。他のまちには少ないといえるこの状況は、JCI福岡にとって大きな力となるといえます。福岡のまちをより素晴らしいまちに変えるべく、色々な方法により既存の団体との連携、そして新しい形での連携を強くしていただきたい。

## 【教育と FUKUOKA の未来】

我々が福岡の未来を語る中で欠かすことのできないもの、それは一体何でしょうか。将来を担っていく人財であると考えます。今からの10年後、50年後、100年後の未来へと残る後世を担う人財を教育することも、我々JCの担うべき役割の一つだと考えます。

その中で、2019年よりおこなっているKids JAYCEE、Young JAYCEEの育成事業についても4年目となります。コロナ禍ではありますが、様々な形において事業をおこなってきました。

まだまだ新型コロナウイルスの影響が根強く残るであろう2022年度においてもKids、Youngの世代が積極的に現場で学ぶことが困難となっています。今こそ我々が先陣をきって学習の場を提供し、普段では学ぶことのできないコミュニケーションの機会を提供すべきだと考えます。

Kids JAYCEE、Young JAYCEE の育成事業においても、設立された意味をしっかりと考える過渡期に差し掛かっていると考えます。改めて本来あるべき JAYCEE の持つ心を、Kids と Young の世代に学ばせようとしている意味を考え、本年度のあらたな事業としていただきたい。

## 【JAYCEE の確立】

人を想い、ひとのために必死に取り組むことは、何ごとにも代えがたい人生最大の財産であり、目標達成のための大きな原動力となります。多くの仲間、人生の師との出会い、同じ目標に向けて支えあい、共に苦難を乗り越えていくことが、自己の成長を促し、かけがえのない仲間を作ります。これこそが JC の魅力であり、アイデンティティの一つでもあります。

「機会は平等だが結果は不平等である」、この言葉の示す通り JC にはあらゆる機会が存在しています。その機会を与えてくれるのは先輩であり仲間です。時には励まし、時には叱られ、引っぱられ、背中を押されながら、私たちは少しでもよくなろうと前に進んでいっているのです。一人ひとりが機会を得て、自己を成長させ、また他者に機会を与え成長させる。この繰り返しは、自ずと組織を活性化させ成長させていきます。

今後も JC の活動内容や形態が変化を遂げたとしても、この根幹は次代に伝えていく必要があると考えます。現役同士の機会もさることながら、シニアメンバー、姉妹 JC との機会も新しいカタチで推進していただきたい。

さらに、ここ 2 年では、JCI 日本の議長・委員長も輩出し、さらに九州地区協議会、福岡ブロック協議会への役員出向など、外部へのリーダーを多数輩出しており、メンバーにとって出向の機会を享受するだけでなく、LOM メンバーの成長への機会創出も可能となります。また出向先でのメンバーの活動は、LOM での経験を他の LOM メンバーの成長へとつなげることもできると確信しています。

福岡のエリアを出るだけでも、自分の想像以上の世界があるのは間違いありません。しかし、その先には必ずその経験の伝搬が行われてしかるべきです。

出向を契機に LOM ではできない経験を受け入れ、また LOM もその経験を受け入れより良いものへと変えていく。このサイクルを途切れさせることなく、より強固な JCI 福岡に変革する機会としていただきたい。

## 【会員拡大と研修について】

卒業があり、新陳代謝を繰り返す団体の中で、常に一定の力のあるメンバーで構成される団体こそ、他の地域の LOM、福岡のまち、ひいては日本の発展に寄与することができると確信しています。常に目を向けていかなければならないのは、JC 外における人財をどのような形において発掘していくのかということです。

平均在籍年数が 4 年を切る現在、懸念することは、先輩方との交流の希薄化、そして構成メンバーの経験不足です。これは現在のコロナ禍においてより加速しつつあります。

今こそ門戸を広げさらにメンバーの拡大を行うべきです。今までのような拡大ターゲットだけではなく、もっと広い視野で拡大候補者の発掘を行いつつも、数だけではなく実際に活動のできるメンバーを育ててほしいと考えます。

また、研修についても同じことが言えます。対面において活動することが制限される中で、研修のプログラム作成は非常に重要なものとなります。構成メンバーの経験不足を補え、仮入会人

数の多い少ないに関わらず、実施することのできるものを作成することが求められます。

育ロムの推奨など、JCI 日本において提唱されている、理念共感拡大グランドデザインに見られる理念共有の為の手法を取捨選択・検討することで、JCI 福岡がリーディング LOM であるということ、JC の吸引力・維持力を高めていくことが必要です。

そのためには、特定の委員会だけでその拡大、研修の責を負うのではなく、LOM 全体で行うことが必要なのは言うまでもありません。

ダイバーシティマネジメントが唱えられている昨今、拡大や研修においてもしっかりとロジカルな視点をもって取り組むと共に、多様なメンバーを JCI 福岡へ迎え入れ、新しい形の活動様式においても活動できるメンバーを LOM 全体で育てていきましょう。

## 【委員会所務の今後の在り方を考える】

2022 年度はウィズコロナ、アフターコロナの入り混じる過渡期になると考えます。

だからこそ、一つひとつの所務を新しい様式に合わせ、一から見直し、考えることが必要です。現役メンバー同士の交流、シニアメンバーとの交流、姉妹 JC との交流、新規カウンターパートナーの模索、交流、教育問題について、拡大手法、研修手法、広報戦略、会議手法、懇親会のあり方など様々な視点において転換期であると考えます。

委員会の所務を分かりやすく分けることで、一からその所務のあり方自体を考え直していただきたい。あえてこの様にするのが、JCI 福岡の今後の在り方を決定付ける何かを、確立できるのではないかと考えます。

毎月の例会一つにとってもそうです。集うことの困難な状況でも例会の大切さを JC のメンバーに今一度伝える必要があります。

委員会、例会に参加することは、JC に所属しているメンバー一人ひとりの義務です。例会の中で唱和する JCI クリッド、ミッション、ビジョン、JC 宣言、綱領は、JC に所属している意味を今一度理解し、襟を正す所であると考えます。入会歴の浅いメンバーやなかなか参加できていないメンバーを誘い、楽しく参加できる環境を作るのは、LOM で役職を受けているメンバー一人ひとりの使命なのです。

さらに広報についても同じことが言えます。JCI 福岡を知ってもらうために、とても重要な広報活動。対内に向けた広報は、LOM から出向しているメンバーの活動状況や LOM 内での活動をより輝かせるツールでもあり、LOM の事業一つひとつをどう見せるかが重要です。

対外に向けた広報に関しては、JC が何をしている団体なのか、JCI 福岡を発信する重要なツールでもあります。広報のやり方によって JC の魅力が伝わるか左右されます。今一度 JCI 福岡のブランディングをどのように行っていくのかを真剣に考え、広報をしていくことが重要であると考えます。自分よがりの広報をするのではなく、行政、パートナー企業、協賛企業と手を取り合い、JCI 福岡の魅力を発信していく必要があります。

総務、財政規則面に関しても同じことが言えます。全国 691LOM ある中で、JCI 日本が定める規則を理解している LOM は数少ないと考えます。出向をして規則にふれているメンバーは理解しているかもしれませんが、JCI 日本の基準も年々変わり、進化していています。事業をする上で、対外に広報をするときにもコンプライアンスを遵守する必要があります。メンバー一人ひとりがこの基準を理解し、JCI 日本の基準と同等のコンプライアンス基準に達することによって、今後 LOM がアワードを申請する際にも必ず役に立つと考えます。

## 【最後に】

外的要因により組織を改革せざるを得ない状況は、まさに転機であるとポジティブに捉え、前を向いて突き進んで行きましょう。我々青年が、率先して行動することでJCの上位目標である、明るい豊かな社会を共に築いていきましょう。終わりの見えないこの社会情勢に一石を投じるのがJCの役割であると考えます。

皆さんにはJCに送り出してくれる会社の上司、同僚、部下がいて、家族が存在しているでしょう。JCという組織において活動させていただいている我々は、会社や家族に対して感謝の念は決して忘れてはいけません。

我々一人ひとりが、周りの人にとって価値ある存在となり、誇れる団体にならなければなりません。そのために、このJCI福岡を我々一人ひとりの手で育てていくことは本当に必要なことなのです。

なぜJCに所属しているのか。

JCメンバー一人ひとりが自問自答し、答えを見つけ、地域のため、社業の発展のため、愛する家族の幸せのため、当事者意識をもち行動を起こす。

JCI福岡はLOMメンバーへの成長を約束し、常に進化を続ける組織であり続けることが必要です。

この状況下において我々がしなければならないことは一体何なのか。戦後まもなくJCが発足したときの様な「創始の精神」に立ち返りつつも、能動的であるべき我々JCI福岡メンバーが、先陣を切って何かしらの新しい形を作り出さなければなりません。

JCは、いつだって現役の我々が主体である組織ということは、再度各々が認識していただきたい事柄であります。「原点回帰」した上で、コロナ禍を転機とした活動様式を生み出し、我々の手でこれまでの常識に捉われることのない、ニューノーマルなJC運動を構築していきましょう。



理事長  
西 嶋 聖  
President  
Akira Nishijima



直前理事長  
彌 登 義 明  
Immediate Past President  
Yoshiaki Mito



副理事長  
年 岡 裕 也  
Executive Vice President  
Yuya Toshioka



副理事長  
水 崎 浩 二  
Executive Vice President  
Koji Mizusaki



副理事長  
前 川 裕 貴  
Executive Vice President  
Hiroki Maekawa



副理事長  
戸 嶋 太 一  
Executive Vice President  
Taichi Tojima



副理事長  
中 原 壯 一 朗  
Executive Vice President  
Soichiro Nakahara



専務理事  
石 坂 泰 三  
Senior Executive Director  
Taizo Ishizaka



監 事  
中 野 雄 将  
Auditor  
Kazumasa Nakano



監 事  
松 岡 将 史  
Auditor  
Shoji Matsuoka



法制顧問  
橋 本 久 志  
General Legal Counsel  
Hisashi Hashimoto



法制顧問  
古 市 剛  
General Legal Counsel  
Tsuyoshi Furuichi



財政顧問  
金 海 安州之  
Treasurer  
Yasuyuki Kaneumi



事務局長  
鍋 山 健 吾  
Secretary-General  
Kengo Nabeyama



常務理事  
上 田 久 紀  
Managing Director  
Hisanori Ueda



常務理事  
大 幡 則 文  
Managing Director  
Norifumi Ohata



セクレタリー  
毛 内 將 元  
Secretary  
Masaharu Keuchi



セクレタリー  
濱 田 正 輝  
Secretary  
Masaki Hamada



セクレタリー  
正 岡 憲  
Secretary  
Ken Masaoka



室 長 堤 祐一郎

## ●基本方針

1953年2月4日に創立され70年の年月が流れようとしています。

今、現役として活動している私たちにとって70年の月日の中、ここまでつないでいただいた諸先輩方には感謝しかありません。多くのシニアの方が築いてきたJCI福岡の輝かしい歴史、誇るべき伝統がある一方、コロナ禍による社会の変革によって、これからの時代に求められる課題がここ数年浮き彫りになりつつあります。

我々、70周年準備室においては、これを単なる周年事業の一環として捉えるのではなく、周年事業をとおして、これからのあるべき姿に対してなんらかの答えを生み出し、それを内外へと示していく転機であると捉えるべきです。

JCI福岡がこれまで当たり前のように行ってきた多くの活動に、制限がかかる中ではありますし、これまでのように多くの来賓の方をお招きして盛大にお祝いを行うことも、もしかするとままならなかもしれません。

しかしながら、諸先輩方がこれまで単年度制であるJCの本質そのままに、多様な社会問題がある中でも、その年その年に精一杯の活動を行うことによって培われてきたからこそ、今があるように、私たち現役メンバーもまた知恵を振り絞り、精一杯の活動をもってこの周年事業を行うことこそが、次なる80周年にむける原動力になるものと信じています。

最後に、この10年に1度しか設置されない室、そして二度とこない70周年という室のメンバーたちがこの事業をとおし多くの機会に触れ、経験をつみ、固い絆に結ばれ、その人生が豊かになるよう両委員長と共に頑張る所存です。

# 70周年交流委員会

## 委員会スローガン【未来は今日始まる】



委員長 山野 晋一  
副委員長 島 雄一  
統括幹事 加地 亮太  
運営幹事 千種 祐香  
会計幹事 諸留 佑介  
広報・拡大幹事 池田 英樹  
井ノ口 翼  
上原 慶介  
近藤 正威  
高田 諭  
富松 靖祐  
橋本 剛  
原 誠一郎  
松本 大

### ●基本方針

創始の志から紡がれてきたJCI福岡の歴史。70周年を迎えられるのは多くの先輩方が、明るい豊かなFUKUOKAの人、まちのためにと集い、想いを積み重ね、未来を夢見て一日一日を大切にしてくられたからです。これからも福岡に住み、福岡で働き、福岡で育つ子供たちが住みやすいまちであるために、私たちは一日一日を丁寧に積み上げ、80周年、100周年へと続いていく持続可能な団体である必要があります。そのためにはメンバーが成長し続け、福岡のまちの成長につなげてきたJCI福岡の先輩方の想い、そしてその実績と蓄積を現役メンバーへ伝え、継承していくことが必要だと考えます。福岡のまちの発展のために歩みを止めることができない私たちだからこそ、未来に期待して前に進み続けたいような「学びのある式典」、「つながりを得られる懇親会」を開催します。

70周年交流委員会として、誇りあるJCI福岡に寄せられる期待に応えるだけではなく、未来のLOMやメンバーにつなげていくことを念頭に、委員会一丸となって福岡の強みを活かした福岡でしかできない、JCI福岡だからこそできる70周年記念式典を執り行います。開催にあたっては先輩方の想いに触れて、歴史を学んでいく必要があるため、先輩方やスポンサーJC、姉妹JCを含め、行政や各種団体も巻き込み、70周年の歴史に携わっていただいた方々とのパートナーシップを強固にする働きかけを、委員会メンバーと共に進めて参ります。

ニューノーマルな生活様式が求められる中でも、集い、寄り添い、協力していく中で醸成される「修練・奉仕・友情」を経験し、心からの仲間となりえる活動とは何なのかを感じ、考え、実施できるメンバーの育成につながる70周年記念式典の開催を行います。その中で、委員会メンバーの一人ひとりが視野を広げ感性を磨き、人間力を高めることこそが企画をする上で最重要であると考え、各種大会も含め多くの機会に触れていただき、未来のLOMを支えるリーダーとなる学びも得ていただきます。そしてLOM全体を巻き込んで式典の成功を目指していきます。

### ●事業計画

#### ◇70周年式典の企画

〈目的〉 JCI福岡の70年の軌跡をたどり、未来のビジョンを共有してもらうことでLOMへの期待を高め、80周年に向けた新時代への転機とすること。

〈方法〉 激動の時代を走り抜けた先輩方の想いに触れ歴史を学び、各委員会と連携しLOMの未来の効果的な演出を策定し、LOM全体を巻き込んでいく。

#### ◇70周年記念懇親会の企画

〈目的〉 JCI福岡70周年懇親会を通し、喜びを分かち合うこと。

〈方法〉 今の時代だからこそできる演出を創出し、時代に則したニューノーマルな設営を心掛けた懇親会の企画。

#### ◇例会の企画・実施(3月)

〈目的〉 JCI福岡の周年事業の存在意義を示すことで重要性を知っていただき、70周年に向けてLOMメンバーの機運を高めていく例会の実施。

〈方法〉 これまでの周年事業に関わられた現役・シニアの方々を巻き込み、周年を通して学んだことをLOMメンバーと共有していただく。

#### ◇会員拡大・研修に関する事項

〈目的〉 会員拡大は、LOMの最重要課題である。「拡大なくしてJCI福岡の未来なし」という強い意識をLOMメンバーがもち、拡大対象者にJCI福岡の魅力や活動を伝え会員拡大を行うこと。また研修に関しては、誰かのために率先して行動し、品格あるJAYCEEへの育成を行うこと。

〈方法〉 LOMメンバー全員がJCI福岡の魅力や活動を伝えられる準備をしておき情報発信・共有を随時行う。委員会においてもメンバー同士で情報共有を行い、広報・拡大幹事がその推進役を担う。仮入会者の研修においては、礼儀・礼節を重んじ、自ら考え行動する習慣を身につけ、自己を見直す事ができるよう意識的に行動する。

#### ◇非常災害時における支援に関する事項

〈目的〉 非常災害が発生した時に、迅速に災害支援を行いまちに貢献すること。

〈方法〉 日常的に防災意識を持ち、非常災害時に当事者意識を持ち迅速に行動できるように努める。

### 委員会年間スケジュール

	上程スケジュール	行 事	上程スケジュール	行 事
2021年				
11月			6月	オールメンバーの集い ブロック大会(つくし) JCI香港シティ周年
12月			7月	国際アカデミー サマーコンファレンス
2022年				
1月	□討議□協議(3月度通常例会事業計画)	京都會議	8月	九州コンファレンス(糸島)
2月	□討議□協議(3月度通常例会事業計画)	第3エリア合同例会	9月	
3月		3月度通常例会	10月	全国大会(大分) JCIサウスサイゴン周年
4月	□討議□審議(3月度通常例会事業報告)		11月	世界会議(香港)
5月		ASPAC(堺高石) JCI下関周年 JCI広島定期交歓会	12月	送るタペ

# 70周年記念委員会

## 委員会スローガン【メンバーとそこに関わる全ての人がハッピーになるJCを！】

### ●基本方針

2023年に創立70周年を迎えるJCI福岡が数々の歴史に支えられ、どのような活動を行っていくべきなのでしょう。新型コロナウイルスの猛威は私たちからあまりにも多くの機会を奪っていきました。

このような状況下でも、メンバーに挑戦の機会を与えて成長を生む。それこそがこれからの委員会運営に求められることだと考えます。JCI福岡は女性メンバーの拡大が見られる一方でメンバーの平均在籍年数が4年を切っているなど、良い面も悪い面も含め変化してきています。このような状況下の今だからこそ「不易流行」の精神で新しい活動様式、考え方を作っていくことは70年の歴史に支えられるJCI福岡だからこそ迎えることができる転換期であるはずで。

これまでの10年間で積み重ねてきたJCI福岡の礎を学び、発信することで、メンバーがJCI福岡の歴史を知り、伝統を学ぶことができます。この貴重な機会を委員会メンバーだけではなくLOM全体に波及させていくことも当委員会に課せられた使命であります。

またこの70周年記念事業を通じて、次の80周年、100周年へと続く持続可能な団体としての第一歩を踏み出すべく、10年後もまちに語り継がれる大胆な事業を行います。

JCI福岡の素晴らしい活動がすべてのメンバー、そこに関わる全ての人達にとって有意義なものを創り出すことができる。メンバーがそのような1年を過ごすことのできる委員会を私は作ります。社会において働き方も大きく変わってきたように、我々の活動様式も大きく変わっていくべきです。「集う」という最大の強みを大前提に、集うことが難しい時期があっても、能動的な活動ができることは近年のWEBやハイブリッドを駆使した我々の活動で実証できているはずで。

困難な状況下であっても足を止めずに突き進むことが、サーバントリーダーシップやダイバーシティ・マネジメントを構築する中でもリーダーに求められる姿であると私は考えます。メンバーの多様性に寄り添い、メンバーに奉仕し、背中を見せながら先導することのできる、そのようなリーダーを輩出します。

### ●事業計画

#### ◇70周年記念誌作成に関する事項

〈目的〉JCI福岡の10年間の軌跡を対外・対内へと発信する

〈方法〉これまでJCI福岡が積み重ねてきた礎と歴史を学び、発信することができる70周年の記念誌を作成する

#### ◇70周年記念事業に関する事項

〈目的〉これまでの10年を締めくくり、これから積み重ねていく歴史への大きな第一歩を踏み出す

〈方法〉70周年として、次の80周年、100周年へと続く持続可能な団体としての第一歩を踏み出すべく、10年後も語り継がれる大胆な事業を企画する

#### ◇会員拡大・研修に関する事項

〈目的〉会員拡大は、LOMの最重要課題である。「拡大なくして福岡JCIの未来なし」という強い意識をLOMメンバーがもち、拡大対象者にJCI福岡の魅力を伝え会員拡大を行うこと。また研修に関しては、誰かのために率先して行動し、品格あるJAYCEEへの育成を行うこと。

〈方法〉LOMメンバー全員がJCI福岡の魅力や活動を伝えられる準備をしておき情報発信・共有を随時行う。委員会においてもメンバー同士で情報共有を行い、広報・拡大幹事がその推進役を担う。仮入会者の研修においては、礼儀・礼節を重んじ、自ら考え行動する習慣を身につけ、自己を見直す事ができるよう意識的に行動する。

#### ◇非常災害時における支援に関する事項

〈目的〉非常災害が発生した時に、迅速に災害支援を行いまちに貢献すること。

〈方法〉日常的に防災意識を持ち、非常災害時に当事者意識を持ち迅速に行動できるように努める。



委員長	田原 義也
副委員長	山本 憲司
統括幹事	村津 万里
運営幹事	保利 一晶
会計幹事	吉松 茂隆
広報・拡大幹事	佐伯 瞳
	青山 零
	川島 裕司
	佐藤 大輔
	下川 浩平
	田中 海人
	谷 康平
	間嶋 弘幸
	安河内 治伸

## 委員会年間スケジュール

	上程スケジュール	行 事		上程スケジュール	行 事
2021年					
11月			6月		オールメンバーの集い ブロック大会(つくし) JCI香港シティ周年
12月			7月		国際アカデミー サマーコンファレンス
2022年					
1月		京都会議	8月	□討議□協議□協議□協議(70周年記念事業計画)	九州コンファレンス(糸島)
2月		第3エリア合同例会	9月	□討議□協議□協議□協議(70周年記念事業計画)	全国大会(大分) JCIサウスサイゴン周年
3月	□討議□協議□協議□協議(70周年記念誌作成事業計画)		10月	□討議□審議□協議□審議(70周年記念事業計画)	
4月	□討議□協議□協議□協議(70周年記念誌作成事業計画)	4月度公開例会実施	11月		世界会議(香港)
5月	□討議□審議□協議□審議(70周年記念誌作成事業計画)	ASPAC(堺高石) JCI下関周年 JCI広島定期交歓会	12月	□討議□審議□協議□審議(70周年記念誌作成報告議案上程)	送るタペ



室 長 尾 本 勝 征

## ●基本方針

新型コロナウイルス感染症拡大により社会経済は世界的に打撃を受けました。福岡のまちもその煽りから未だ先が見通せない状況が続き、外部とのコミュニケーションが希薄化する中で、JCI福岡の強みである国際ネットワークや行政との関係性は弱まりつつあります。

関係性が希薄になっている今、FUKUOKAをより豊かにするためには、これまでのつながりを知り、今だからこそできるつながりを考え、関係性の強化を図ることによって、福岡の未来を創造するための大きな力とする必要があります。

未来創造室では、JCI福岡の「創始の精神」を胸に、既成概念にとらわれない新しい形での連携を模索し、国際・行政・外部団体との関係性を強固なものとなるよう尽力して参ります。また、連携することによるシナジーがFUKUOKAの大きなうねりとなり、より豊かな社会の実現に寄与する礎となるような活動を展開していきます。

FUKUOKAのために活動する我々JCメンバーと、未来を考える多くの団体が手を取り合うことで生まれる大きな力は必ず福岡のまちを豊かにし、新たなイノベーションを次々と起こす好循環を生み出します。連携することで育まれる絆がFUKUOKAを創造する力になるという気概を持って邁進いたします。

# 国際都市創造委員会

## 委員会スローガン【ここを一つに NO LIFE, NO JC】



委員長 三浦 隆 祐  
副委員長 右近 将 司  
統括幹事 藤崎 康 司  
運営幹事 武田 愛 理  
会計幹事 春野 英 理  
広報・拡大幹事 中原 有 典  
佐伯 公 大  
小池 直 人  
千代 和 明  
鳥巢 栄三郎  
樋口 洸 太  
本村 亮 道  
渡邊 裕 太郎

### ●基本方針

現代社会において、ICTの発達、インフラの充実により、今まで以上に世界を身近に感じるこの時代になりました。しかし新型コロナウイルスの影響により、渡航は制限され人々の生活が大きく変化し、積極的に行動できない時代へと移り変わっています。アフターコロナの今、変化が求められるこの時代において、一人ひとりが視野を広げて行動することがより良い社会の実現へとつながると考えます。

また、この2年間姉妹JCとの交流が希薄になりました。今後、経済や文化等に関する交流を行うことによって、会員相互の理解と友情を深め、さらに地域社会の産業、文化、教育の発展に対して国際的視野にたった親善が必要です。

JCの強みである国際ネットワークを最大限に活かし、姉妹JCや外部団体との連携を通じて様々な言葉や文化、習慣に触れる国際交流を行い、多様性を受け入れる機会の創出をすることで相互理解を深めてまいります。そして、国際的な視点からものを考えることができる国際感覚を育み、誰もが自分らしく生活できるまちづくりを実現するために発信をしていきます。多様な人種、文化との出会いを創出することは、新たな発見を生み出す原動力となります。

メンバー一人ひとりが国際的な視野を持つことでさらなるまちの発展につながります。そのためには、多くの人を巻き込んだまちづくり運動を行っていく必要があります。

国際都市創造委員会では、JCI福岡のメンバーと、このまちの一人ひとりが世界に目を向けて行動できる考え方を養い、さらなる福岡のまちの国際化を目指していきます。当委員会の運動により、このまちの人々と委員会メンバーが世界とつながる考え方を養い、一人ひとりが視野を拡げ行動し、今後のJCI福岡の可能性を拡げ、コロナ禍を転機に型にとられないニューノーマルな目標に向かってチャレンジできる人材の創出を行うことで、今まで以上に夢が叶えられるまち、福岡の実現を目指します。

### ●事業計画

#### ◇国際連携に関する事業の実施

〈目的〉 姉妹JCや外部団体と連携することで福岡の可能性を拡げ、福岡のまちが更に国際化することでまちづくりへの機運を高めること。

〈方法〉 姉妹JCや外部団体と連携し、多様性を受け入れる機会の創出をすることで相互理解を深める。

#### ◇公開例会の実施（4月）

〈目的〉 福岡をさらに国際都市として魅力のあるまちにしていけるために、問題や課題を調査・研究し、まちの発展や活性化につながる例会を実施すること。

〈方法〉 多様な文化を通じて、福岡の国際都市への推進化、福岡のまちづくりに必要な国際都市のあり方などに関する公開例会の実施を行う。

#### ◇ASPAC（堺高石）への参加促進、LOMナイトの企画・実施

〈目的〉 ASPACの意義を理解していただき、様々なフォーラム・ファンクションに参加し、アジア・太平洋地域のJCの仲間と交流を深めていただくこと。また、LOMナイトを実施することで堺高石の魅力・文化にも触れていただくこと。

〈方法〉 ASPACの内容を案内し、参加することの目的・意義を発信し、多くのメンバーにASPACに参加してもらえるよう参加促進を行う。また、現地調査を行い記憶に残るLOMナイトを企画・実施する。

#### ◇世界会議（香港）の参加促進

〈目的〉 世界会議の意義を理解していただき、様々なフォーラム・ファンクションに参加していただくこと。

〈方法〉 世界会議の内容を案内し、参加することの目的・意義を発信し、多くのメンバーに世界会議に参加してもらえるよう参加促進を行う。

#### ◇JCI香港シティに関する事項を含む国際の機会に関する事項

〈目的〉 JCI香港シティとの関係を深め、互いの文化を理解することで、国際感覚を身に付けていただくこと。

〈方法〉 互いの周年事業へ参加することで、更なる関係構築を行う。

#### ◇トリオ会議を含む国際の機会に関する事項の補助

〈目的〉 これまで育んできたJCI下関・JCI釜山との友情を途切れることなく継承していくこと。

〈方法〉 各々が地域社会のために率先して行動する機会を共有することで、互いの成長を促し高め合う相乗効果を生み出す。

#### ◇JCIサウスサイゴンに関する事項を含む国際の機会に関する事項の補助

〈目的〉 姉妹JCであるJCIサウスサイゴンとの交流を通じ国際の機会の創出の補助をすること。

〈方法〉 コロナ禍においてWEBなどの手法を用い最適な手段を考え国際交流を図る。

#### ◇会員拡大・研修に関する事項

〈目的〉 会員拡大は、LOMの最重要課題である。「拡大なくしてJCI福岡の未来なし」という強い意識をLOMメンバーがもち、拡大対象者にJCI福岡の魅力を伝え会員拡大を行うこと。また研修に関しては、誰かのために率先して行動し、品格あるJAYCEEへの育成を行うこと。

〈方法〉 LOMメンバー全員がJCI福岡の魅力や活動を伝えられる準備をしておき情報発信・共有を随時行う。委員会においてもメンバー同士で情報共有を行い、広報・拡大幹事がその推進役を担う。仮入会者の研修においては、礼儀・礼節を重んじ、自ら考え行動する習慣を身につけ、自己を見直す事ができるよう意識的に行動する。

#### ◇非常災害時における支援に関する事項

〈目的〉 非常災害が発生した時に、迅速に災害支援を行いまちに貢献すること。

〈方法〉 日常的に防災意識を持ち、非常災害時に当事者意識を持ち迅速に行動できるように努める。

### 委員会年間スケジュール

	上程スケジュール	行 事		上程スケジュール	行 事
2021年					
11月			6月		オールメンバーの集い ブロック大会（つくし） JCI香港シティ周年
12月			7月	□討議□審議（4月度講師公開例会事業報告）	サマーコンファレンス（横浜）
2022年					
1月	□討議□審議（4月度講師公開例会事業計画）	京都会議	8月		事業実施（国際都市創造事業） 九州コンファレンス（糸島）
2月	□討議□審議（4月度講師公開例会事業計画）	第3エリア合同例会	9月		
3月	□討議□審議（4月度講師公開例会事業計画） □討議□協議□協議□協議（国際都市創造事業計画）		10月		全国大会（大分） JCIサウスサイゴン周年
4月	□討議□協議□協議□協議（国際都市創造事業計画）	事業実施（4月度講師公開例会事業）	11月	□討議□審議（国際都市創造事業報告）	世界会議（香港）
5月	□討議□審議□協議□審議（国際都市創造事業計画）	ASPAC（堺高石）・LOMナイト実施 JCI下関周年 JCI広島定期交友会広島定期交友会	12月		送るタベ

# FUKUOKA 創造委員会

## 委員会スローガン【ONE TAKE】



委員長 板谷 和樹  
副委員長 泉 雄介  
統括幹事 本竹 真徳  
運営幹事 重松 祐樹  
会計幹事 藤岡 勇樹  
広報・拡大幹事 中川 昂大  
阿比留 真平  
岡本 健人  
坂元 太施  
高見 慎也  
千代田 明久  
中井 新一  
長島 義弘  
新納 尚祐

### ●基本方針

グローバル (Global) という考え方があります。「地球規模 (Global) の視野で考え、地域 (Local) 視点で行動する」という、日本企業の海外戦略理念として1980年代に生まれたとされるこの言葉は、近年、世界的に環境問題、政治、経済といったあらゆる分野で用いられています。この言葉が一層社会に根付いている背景には、ひと頃より世界が近くなったことのみならず、年々「ローカル」に注目が集まっていることが挙げられます。これに伴い、地方行政へのニーズも多様化・高度化してきており、現在の福岡市役所は24局、約100の部に、1万7,000人あまりの職員が在籍しています。

行政サービスは住民が自治体に信託しているものであるため、行政資源を効率的に使うことを、住民が民主的に決定するのが原則です。ただ民意は一枚岩ではありませんし、民主的に決めるということは、言うは易く行うは難し。1万7,000人も職員をもってしても、全ての民意に応えるということは不可能でしょう。そんな「市民は求めているけど行政の手が届いていないこと」への挑戦こそ、JCI福岡の担いであるといえます。あまねく人に対してしかサービスを提供できない行政であるがゆえ、本来であれば解決できなかったような限られたターゲットに対する課題等に関しては、JCが提言できる部分、提供できるものはまだまだ多くあるのではないのでしょうか。また、こうした市民が求めている事業を既に実施している団体は、福岡に数多く存在します。そのような団体とタッグを組むことでも、市民の期待に応えることはできるでしょう。

当委員会ではまず、行政における各部門のミッションと、まちのために取り組んでいる団体の活動を調査研究します。またいずれかの行政部門もしくは団体とJCI福岡が、共に協力し合いながら長期的にFUKUOKAのために活動していくきっかけとなる事業を実施します。

FUKUOKAの未来を創造することを想像し、ワクワクしながら語り合うことで、能動的に活動するJAYCEEを育成し、顔を合わせ共に笑うことで、メンバー同士の絆を醸成していきます。“ONE TAKE”。メンバーの一度しかない一瞬を大切に、委員会運営を行っていきます。

### ●事業計画

#### ◇行政・各種団体との連携に関する事業の企画・実施

〈目的〉行政もしくは各種団体と、長期的に連携するきっかけをつくること。

〈方法〉行政・各種団体との協働でFUKUOKAのための事業を実施する。

#### ◇行政・各種団体との連携に関する調査・研究

〈目的〉各委員会の事業構築の一助となるよう、JCI福岡が行政・各種団体の活動を再認識すること。

〈方法〉行政・各種団体の活動を調査研究し、リスト化する。

#### ◇公開例会の企画・実施 (5月)

〈目的〉行政・各種団体の取り組みを発信すること。

〈方法〉まちのための活動に精通した有識者による講演を行う。

#### ◇JCI香港シティに関する事項を含む国際の機会に関する事項の補助

〈目的〉JCI香港シティとの関係を深め、互いの文化を理解することで、国際感覚を身に付けていただくことの補助をすること。

〈方法〉互いの周年事業へ参加することで、更なる関係構築を行う。

#### ◇会員拡大・研修に関する事項

〈目的〉会員拡大は、LOMの最重要課題である。「拡大なくしてJCI福岡の未来なし」という強い意識をLOMメンバーがもち、拡大対象者にJCI福岡の魅力を伝え会員拡大を行うこと。また研修に関しては、誰かのために率先して行動し、品格あるJAYCEEへの育成を行うこと。

〈方法〉LOMメンバー全員がJCI福岡の魅力や活動を伝えられる準備をしておき情報発信・共有を随時行う。委員会においてもメンバー同士で情報共有を行い、広報・拡大幹事がその推進役を担う。仮入会者の研修においては、礼儀・礼節を重んじ、自ら考え行動する習慣を身につけ、自己を見直す事ができるよう意識的に行動する。

#### ◇非常災害時における支援に関する事項

〈目的〉非常災害が発生した時に、迅速に災害支援を行いまちに貢献すること。

〈方法〉日常的に防災意識を持ち、非常災害時に当事者意識を持ち迅速に行動できるように努める。

## 委員会年間スケジュール

	上程スケジュール	行 事	上程スケジュール	行 事
2021年 11月			6月 □討議□審議 (5月度講師公開例会報告)	オールメンバーの集い ブロック大会 (つくし) JCI香港シティ周年
12月			7月	事業実施 国際アカデミー サマーコンファレンス (横浜)
2022年 1月	□討議□協議 (5月度講師公開例会計画)	京都会議	8月 □討議□審議□協議□審議 (事業報告)	九州コンファレンス (糸島)
2月	□討議□協議 (5月度講師公開例会計画)	第3エリア合同例会	9月	
3月	□討議□審議 (5月度講師公開例会計画) □討議□協議□協議□協議 (事業計画)		10月	全国大会 (大分) JCIサウスサイゴン周年
4月	□討議□協議□協議□協議 (事業計画)		11月	世界会議 (香港)
5月	□討議□審議□協議□審議 (事業計画)	5月度公開例会実施 ASPAC (堺高石) 26日-29日 JCI下関周年 JCI広島定期交歓会	12月	卒業生を送る夕べ

# 未来デザイン創造委員会

## 委員会スローガン【FUKUOKAの成長のために個人が成長する】



委員長 福島 卓  
副委員長 伊東 健太郎  
統括幹事 池尻 将悟  
運営幹事 小菅 良助  
会計幹事 野満 圭介  
広報・拡大幹事 末永 純也  
立部 真康  
岩下 優典  
川嶋 潔典  
熊谷 平助  
合谷 賢太  
扠山 哲平  
山下 正太  
吉村 友佑

### ●基本方針

2020年から続く新型コロナウイルス感染症という未曾有の大災害により、これまでの生活様式が大きく変わり、「ニューノーマル」が新たな習慣として定着しつつあります。リアルでの人との交流が減り、教育、芸術・芸能文化だけでなく観光産業、飲食産業など様々な分野において先行きが見えない中、福岡のまちは新しい取り組みを模索し、手探りながらも前に進んでいます。

これまでJCI福岡は、2010年に「アジア交流首都宣言」、2016年には「グランドデザインFUKUOKA」という様々な提言を行ってきました。そのときに想像されていたまちの未来は、この2年間の社会情勢により大きく方向転換していくことが求められています。

コロナ禍での様々な制限は、まちの成長を著しく鈍化させます。まだこの情勢は続くと思われていますが、この2年間で我々は、制限の中でも活路を見出し、行動すること、変化すること、適応することを体現してきました。我々がこれまでの歴史とまちのために行動し培った経験を礎に、10年20年先の福岡のまちに新たな価値を描き、明るい豊かな社会を実現できるよう広く発信していく必要があります。

当委員会は、福岡を引っ張っていく団体として、また持続可能な団体へ成長していくため、過去・現在の福岡の調査・研究を行い、新しい福岡の未来を提言書に描き、広く発信していきます。福岡の過去に触れる機会をメンバーに届けること。現在の福岡を知るためにメンバーと濃厚な時間を共有すること。そして、大好きな福岡の未来のために新たな価値を求めて率先して行動する人財を育成するとともに、年齢や育った環境も違う偶然の出会いが、これから先もずっと集える仲間となるように、笑顔溢れる委員会を運営してまいります。

### ●事業計画

#### ◇持続可能な福岡のまちを創造する提言・発信

〈目的〉今まで以上のJCI福岡のまちにおける存在意義を高めるとともに、持続可能な団体へ向けて踏み出す指針を作ること。

〈方法〉持続可能な福岡のまちを創造し、JCI福岡が活動していく指針となる提言書を作成し、広く発信する。

#### ◇持続可能な福岡のまちの調査・研究

〈目的〉福岡のまちの過去・現在へと繋がる歴史を深く調査・研究すること。

〈方法〉提言書を作成するにあたり、これまでの福岡の過去から現在とそとの変革を深く知り、未来の持続可能な福岡のまちを創造すること。

#### ◇ウィズコロナ、アフターコロナにおけるJCI福岡独自のカンファレンスガイドラインの策定

〈目的〉これまで育んできたJCI下関・JCI釜山との友情を途切れることなく継承していくこと。

〈方法〉各々が地域社会のために率先して行動する機会を共有することで、互いの成長を促し高め合う相乗効果を生み出す。

#### ◇会員拡大・研修に関する事項

〈目的〉会員拡大は、LOMの最重要課題である。「拡大なくしてJCI福岡の未来なし」という強い意識をLOMメンバーがもち、拡大対象者にJCI福岡の魅力や活動を伝え会員拡大を行うこと。また研修に関しては、誰かのために率先して行動し、品格あるJAYCEEへの育成を行うこと。

〈方法〉LOMメンバー全員がJCI福岡の魅力や活動を伝えられる準備をしておき情報発信・共有を随時行う。委員会においてもメンバー同士で情報共有を行い、広報・拡大幹事がその推進役を担う。仮入会者の研修においては、礼儀・礼節を重んじ、自ら考え行動する習慣を身につけ、自己を見直す事ができるよう意識的に行動する。

#### ◇非常災害時における支援に関する事項

〈目的〉非常災害が発生した時に、迅速に災害支援を行いまちに貢献すること。

〈方法〉日常的に防災意識を持ち、非常災害時に当事者意識を持ち迅速に行動できるように努める。

## 委員会年間スケジュール

	上程スケジュール	行 事		上程スケジュール	行 事
2021年					
11月			6月		オールメンバーの集い ブロック大会(つくし) JCI香港シティ周年
12月			7月		国際アカデミー サマーカンファレンス(横浜)
2022年		京都会議	8月		九州カンファレンス(糸島)
1月			9月		
2月		第3エリア合同例会	10月		全国大会(大分) JCIサウスサイゴン周年
3月	□討議□協議□協議□協議(持続可能な福岡のまちを創造する提言書及び発信)		11月	□討議□審議□協議□審議(事業報告)	世界会議(香港)
4月	□討議□協議□協議□協議(持続可能な福岡のまちを創造する提言書及び発信)		12月		送るタベ
5月	□討議□審議□協議□審議(持続可能な福岡のまちを創造する提言書及び発信)	ASPAC(堺高石) トリオ会議 JCI下関周年 JCI広島定期交歓会			



室 長 古 田 真 幸

## ●基本方針

2年前、突如猛威を振るった新型コロナウイルスは、我々の生活や仕事、社会活動に多大なる影響を与えました。集うことが困難になった中、オンラインを活用した面談や会議、授業など新たなコミュニケーションの方法も生まれました。

しかしながら、人と人が膝を突き合わせ語り合うことや、リアルな体験から得られる学びや成長の機会が減少していることは、JCI福岡だけでなく、未来のFUKUOKAを担っていく青少年にとって大きな機会の損失であると言えます。

人財育成室では、今後のJCI福岡を背負っていく新入会員一人ひとりに対し、JC三信条である「修練・奉仕・友情」をリアルな研修によって体感してもらい、アクティブなJAYCEEを育成していきます。また、まちの宝であるYoung・Kids世代に対し、JCI福岡にしかできない事業を体験することで、自らの将来の目標や夢を考えるきっかけを創出するとともに、未来のJAYCEEを育成するような活動を展開していきます。

コロナ禍からの真の復興はひとによってしか成しえませんが、我々JCメンバーはもちろん、Young・Kids世代の成長がこのまちにさらなる発展をもたらしていく。そのような気概を持って1年間精進してまいります。

# Kids JAYCEE 育成委員会

## 委員会スローガン【Start today】

### ●基本方針

昨今、未曾有の大規模災害や新型コロナウイルスの流行等に伴い大きな環境の変化が起きており、今から未来に起こる社会の変化は、これまでの20年で起きた変化よりも大きいものと推測されます。

100年に1度は風景ががらりと変わる変化が起きると言われており、新型コロナウイルス感染拡大から2年が経過しようとした今、まさにその変化が起きるときが目の前に来ています。

世界がニューノーマルを模索する中、私たちににとっては当たり前であったことでも、今の子供たちには当たり前でないこともあり、成長に関わる一番大事な時期に人と人が触れ合える大切な機会が減少しています。その結果、自制心や規範意識の低下、人間関係を形成する力の低下、「自尊感情」が低く、将来への夢を描けないという子供たちが増えています。現代の子供たちには、まず人とのつながりの素晴らしさを改めて実感してもらい、社会が変革を求める今だからこそ伝えて響くことがあると思います。

当委員会では4年目となるKids JAYCEEを継承し、リアルの大切さと同時に思考力、判断力、表現力等を育成することを目的としたプログラミング的思考を教育していくハイブリットな事業構築をいたします。そして、未来のKids JAYCEEへつなぐため、JCI福岡のもつ国内外を問わない巻き込み力をフル活用し、集大成としての事業を実施いたします。

目指す未来は「JCI福岡が実施したKids JAYCEE育成プログラムが福岡のまちの個性（文化）であること」、「子供たちがKids JAYCEE経験者であることに誇りをもてること」。その挑戦の過程で委員会メンバーと共に、同じ目標に向かって全力で取組み、互いが互いを想いやり、一人ひとりがあなたに会えてよかったと言い合える一生涯の仲間を委員会で育んでいきます。

### ●事業計画

◇Kids JAYCEE第四期生の募集と育成に関する事業の企画・実施

〈目的〉誰かの為に自発的に動くことができる子供の育成を行うこと。

〈方法〉子供たちを取り巻く環境を調査、研究し、自ら発信していける人間となるためのきっかけとなる事業の実施。

◇合同公開例会の企画・実施（10月）

〈目的〉学校では体験できない気づきや学びを与えること。

〈方法〉Kids JAYCEE、Young JAYCEEが例会の「運営や設営」を体験し、行った事業を発表することで、気づきや学びを与える例会をYoung JAYCEE育成委員会と共同開催する。

◇会員拡大・研修に関する事項

〈目的〉会員拡大は、LOMの最重要課題である。「拡大なくしてJCI福岡の未来なし」という強い意識をLOMメンバーがもち、拡大対象者にJCI福岡の魅力や活動を伝え会員拡大を行うこと。また研修に関しては、誰かの為に率先して行動し、品格あるJAYCEEへの育成を行うこと。

〈方法〉LOMメンバー全員がJCI福岡の魅力や活動を伝えられる準備をしておき情報発信・共有を随時行う。委員会においてもメンバー同士で情報共有を行い、広報・拡大幹事がその推進役を担う。仮入会者の研修においては、礼儀・礼節を重んじ、自ら考え行動する習慣を身につけ、自己を見直す事ができるよう意識的に行動する。

◇非常災害時における支援に関する事項

〈目的〉非常災害が発生した時に、迅速に災害支援を行いまちに貢献すること。

〈方法〉日常的に防災意識を持ち、非常災害時に当事者意識を持ち迅速に行動できるように努める。



委員長	中之藪 匡 伸
副委員長	坂本 満 康
統括幹事	黒川 悠 子
運営幹事	倉掛 裕 輔
会計幹事	船越 幹 治
広報・拡大幹事	野上 俊 彦
	斎藤 健 吾
	岡村 悠 矢
	馬場 寛 幸
	林 美 奈
	古本 美由紀
	堀田 和 裕
	牧山 隆 一
	村瀬 浩 司

### 委員会年間スケジュール

	上程スケジュール	行 事		上程スケジュール	行 事
2021年			6月		オールメンバーの集い ブロック大会（つくし） JCI香港シティ周年
			7月	□討議□協議（10月度通常例会事業計画）	国際アカデミー サマーコンファレンス
2022年		京都会議	8月	□討議□協議（10月度通常例会事業計画）	Kids JAYCEE育成委員会事業実施 九州コンファレンス（糸島）
	□討議□協議□協議□協議（事業計画）	第3エリア合同例会	9月	□討議□審議（10月度通常例会事業計画）	
	□討議□協議□協議□協議（事業計画）		10月		10月度合同例会実施（室合同） 全国大会（大分） JCIサウスサイゴン周年
	□討議□審議□協議□審議（事業計画）		11月	□討議□審議□協議□審議（事業報告）	世界会議（香港）
		ASPAC（堺高石） JCI下関周年 JCI広島定期交歓会	12月	□討議□審議（10月度通常例会事業報告）	送るタベ

# Young JAYCEE 育成委員会

## 委員会スローガン【素直・謙虚・感謝】



委員長 親川 広志  
副委員長 三苦 弘典  
統括幹事 古野 稔幸  
運営幹事 古賀 彩華  
会計幹事 麻生 良太  
広報・拡大幹事 安良岡 成晃  
阿部 健太郎  
今泉 孝太郎  
柴田 恵里  
南里 康晴  
濱野 雅行  
針尾 洋平  
松岡 大輝  
松田 敦朗

### ●基本方針

JCI福岡は、1953年に設立し戦後の復興やまちの発展に大きく貢献し、JCメンバーの成長につなげてきました。しかし設立から69年経った現在において福岡にはJC以外にも多くの慈善団体が存在し、さまざまな形でまちを盛り上げています。まちづくりの機運が高まっている今こそ、JCは創始の精神に立ち返り独自性を強めて行く必要があります。2020年から始まった新型コロナウイルスの影響は、我々青年経済人や若者の教育にも多大なる影響を与え、現場で学んでいくことが困難になり、経験や体験をする機会が減りました。

高校生、大学生の悩みランキング1位は「将来何をしたら良いかわからない」ですが、学業以外の経験をする事で、視野が広がり、将来のビジョンを描ききっかけになることもあります。将来何かを成し遂げるにあたり、青年期の経験はその後の人生に大きな変化をもたらす時期でもあります。だからこそ、異質なものにも触れて、経験を蓄積し、世界観を広げ、観点を増やす必要があります。未来のFUKUOKAを背負っていく若者が多くの経験をする事により、将来のFUKUOKAのまちも変わっていくことになります。

当委員会は、若者たちに人生の分岐点になるような経験や体験をさせて、将来のビジョンを描ききっかけづくりを行い、経験豊富な次世代のリーダーを輩出する事業を行います。

また、委員会メンバー自身も教えながら学習し、学べることや関わってくれている方への感謝の気持ちを忘れず、素直に行動し、委員会メンバー自身の成長へつなげていきます。

我々が率先して行動していくことにより、リーダーとしての背中を見せ、Young JAYCEE第四期生にも影響を与え、自分自身も自律した一人の人間として力強く生きていくための人間力を身につけ、魅力あふれる人財を輩出する委員会にします。

### ●事業計画

◇Young JAYCEE第四期生の募集と育成に関する事業の企画・実施。

〈目的〉自ら考え行動するYoung JAYCEEの発掘と育成を行うこと。

〈方法〉若者の現状と課題を調査・研究しFUKUOKAの発展に繋がる人財育成の事業実施。

◇合同公開例会の企画・実施（10月）

〈目的〉学校では体験できない気づきや学びを与えること。

〈方法〉Kids JAYCEE、Young JAYCEEが例会の「運営や設営」を体験し、行った事業を発表することで、気づきや学びを与える例会をKids JAYCEE育成委員会と共同開催する。

◇会員拡大・研修に関する事項

〈目的〉会員拡大は、LOMの最重要課題である。「拡大なくしてJCI福岡の未来なし」という強い意識をLOMメンバーがもち、拡大対象者にJCI福岡の魅力伝え会員拡大を行うこと。また研修に関しては、誰かのために率先して行動し、品格あるJAYCEEへの育成を行うこと。

〈方法〉LOMメンバー全員がJCI福岡の魅力や活動を伝えられる準備をしておき情報発信・共有を随時行う。委員会においてもメンバー同士で情報共有を行い、広報・拡大幹事がその推進役を担う。仮入会者の研修においては、礼儀・礼節を重んじ、自ら考え行動する習慣を身につけ、自己を見直す事ができるよう意識的に行動する。

◇非常災害時における支援に関する事項

〈目的〉非常災害が発生した時に、迅速に災害支援を行いまちに貢献すること。

〈方法〉日常的に防災意識を持ち、非常災害時に当事者意識を持ち迅速に行動できるように努める。

### 委員会年間スケジュール

	上程スケジュール	行 事		上程スケジュール	行 事
2021年					
11月			6月		オールメンバーの集い ブロック大会（つくし） JCI香港シティ周年
12月			7月	□討議□協議（10月度通常例会計画）	Young JAYCEE育成委員会事業実施 国際アカデミー サマーコンファレンス
2022年			8月	□討議□協議（10月度通常例会計画）	九州コンファレンス（糸島）
1月	□討議□協議□協議□協議（事業計画）	京都会議	9月	□討議□審議（10月度通常例会計画）	
2月	□討議□協議□協議□協議（事業計画）	第3エリア合同例会	10月		10月度合同例会実施（室合同） 全国大会（大分） JCIサウスサイゴン周年
3月	□討議□審議□協議□審議（事業計画）		11月	□討議□審議□協議□審議（事業報告）	世界会議（香港）
4月			12月	□討議□審議（10月度通常例会報告）	送るタペ
5月		ASPAC（堺高石市） JCI下関周年 JCI広島定期交歓会			

# 研 修 委 員 会

## 委員会スローガン【克己心】

### ●基本方針

昨今、集う事が制限されると同時に在籍期間が短い傾向にあります。各委員会の事業への参加や各種大会への参加率をみると、どこかつながりの弱さを感じ、現役メンバーの経験不足などが問題視されているように思います。しかし、JCI福岡で与えられる機会の数々は、想像を超えた前向きな変化をもたらし、かけがえのない貴重な経験、財産となっています。だからこそ、この制限された中であっても、あらためて「修練・奉仕・友情」このJC三信条を仮入会者に明確に伝え品格あるJAYCEEを構築する必要があります。

そのためにもまずは研修委員会が仮入会者一人ひとりに、いち早く火をつけ成長を促し、同期会を結束させ、より強い仮入会者、新入会員へと押し上げ、伝統ある研修委員会の先輩方がやってきた以上に本気でぶつかっていきま。また、仮入会期間を通して仮入会者の個性を引き出し、さらに深い研修を行うために他の委員会皆様のお力をお借りし、LOM全体で深い愛情を注げる研修を行なっていきます。

最後に、2022年度研修委員会のメンバー同士が強く太い絆を結ぶ委員会運営を行うことが全てのスタートになり、「強い品格あるJAYCEE」の構築につながると確信しています。アフターコロナ、ウィズコロナの先の転機となる2022年度。やがて研修したメンバーが福岡のまちを動かす原動力になる。その使命感とJCI福岡の伝統を胸に、変えてはならないところは大切に守り、変えるべきところは積極的に変えていく。改めてしっかりと足元を見つめ直し、常に新しいことに果敢にチャレンジする、メンバーの未来が光り輝くものとなるために、できる事ではなく、なすべき事を誰よりも率先して行動する事ができるように委員会運営を行なっていきます。

### ●事業計画

#### ◇仮入会者への指導・研修に関する事項

〈目的〉誰かのために率先して行動するJCI福岡正会員への育成をすること。

〈方法〉礼儀・礼節を重んじ、自ら考え行動する習慣を身につけ、自己を見直す事ができるオリエンテーションの実施。

#### ◇やすらぎ荘に関する事項

〈目的〉3同期会を中心に、福祉やボランティアを通し、奉仕の意味を再確認すること。

〈方法〉やすらぎ荘との協議のもと、今までにとらわれない形・関係のもと企画・実施する。

#### ◇新入会同期事業に関する事項

〈目的〉新入会同期メンバーが「ところてん事業」を通し、JCIの事業運営を理解すること。

〈方法〉研修委員会指導のもと、議案構築・事業目的・企画運営を行い同期メンバーで企画・実施する。

#### ◇JCI糟屋の研修支援に関する事項

〈目的〉JC三信条を念頭に、JC正会員としての誇りを持てるように連携し指導・教育を行うこと。

〈方法〉JCI福岡で行った研修を共有し、連携をとる。

#### ◇会員拡大に関する事項

〈目的〉会員拡大は、LOMの最重要課題である。「拡大なくしてJCI福岡の未来なし」という強い意識をLOMメンバーがもち、拡大対象者にJCI福岡の魅力や活動を伝え会員拡大を行うこと。

〈方法〉LOMメンバー全員がJCI福岡の魅力や活動を伝えられる準備をしておき情報発信・共有を随時行う。委員会においてもメンバー同士で情報共有を行い、広報・拡大幹事がその推進役を担う。

#### ◇非常事態に置ける支援に関する事項

〈目的〉非常災害が発生した時に、迅速に災害支援を行いまちに貢献すること。

〈方法〉日常的に防災意識気持ち、非常時に迅速に行動できるように努める。



委員長 榊 洋章  
副委員長 馬場 秀一  
統括幹事 寺田 光児  
運営幹事 鶴 和晃  
会計幹事 今宮 誠司  
広報・拡大幹事 江島 弘樹  
尾花 一樹  
木塚 勝也  
久藤 拓磨  
坂次 翔二  
永松 賢二  
中村 拓也  
安河内 剛

## 委員会年間スケジュール

上程スケジュール		行 事	上程スケジュール		行 事
2021年 11月	□討議□協議 (前期仮入会者オリエンテーション事業計画)		6月	□討議□審議 (前期仮入会者オリエンテーション事業報告)	中期仮入会者オリエンテーション② ところてん事業実施：前期仮入会者オールスターの戦い ブロック大会(つくし) JCI香港シティ周年
12月	□討議□審議 (前期仮入会者オリエンテーション事業計画)		7月	□討議□協議 (後期仮入会者オリエンテーション事業計画) □討議□協議□協議□協議 (やすらぎ荘事業計画)	中期仮入会者オリエンテーション③ サマーコンファレンス(横浜) 国際アカデミー
2022年 1月	□討議□討議□討議□討議 (ところてん事業計画：後期仮入会)	前期仮入会者オリエンテーション① 京都会議	8月	□討議□審議 (後期仮入会者オリエンテーション事業計画) □討議□討議□討議 (ところてん事業報告：前期仮入会) □討議□協議□協議□協議 (やすらぎ荘事業計画)	後期仮入会者入会審査 九州コンファレンス(糸島)
2月		前期仮入会者オリエンテーション② ところてん事業実施：後期仮入会第3エリア合同例会	9月	□討議□討議□討議□討議 (ところてん事業計画：中期仮入会) □討議□審議□討議□審議 (やすらぎ荘事業計画)	後期仮入会者オリエンテーション①
3月	□討議□協議 (中期仮入会者オリエンテーション事業計画)	前期仮入会者オリエンテーション③	10月	□討議□審議□協議□審議 (事業報告)	後期仮入会者オリエンテーション② やすらぎ荘事業 全国大会(大分) JCIサウスサイゴン周年
4月	□討議□審議 (中期仮入会者オリエンテーション事業計画) □討議□討議□討議 (ところてん事業報告：後期仮入会)	中期仮入会者入会審査	11月		後期仮入会者オリエンテーション③ 次年度前期仮入会者入会審査 世界会議(香港)
5月	□討議□討議□討議□討議 (ところてん事業計画：前期仮入会)	中期仮入会者オリエンテーション① ASPAC(堺高石) JCI下関周年 JCI広島定期交歓会	12月	□討議□審議 (後期仮入会者オリエンテーション事業報告) □討議□討議□討議 (ところてん事業報告：中期仮入会) □討議□審議□討議□審議 (やすらぎ荘事業報告)	送るタベ



室長 石崎 裕一

## ●基本方針

70周年を迎えようとするJCI福岡には、代々受け継がれてきた想いがあります。それは人と人との交流から生まれる絆です。

コロナ禍を経験し、交流の機会が減っている中でも仲間を想う気持ちは決して途絶えさせてはいけません。我々、メンバーシップ交流室は現役メンバー同士、シニアメンバーとの交流をさらに強固なものとする役割があります。

ウィズコロナ、アフターコロナの入り混じる過渡期になる時代だからこそ、可不可を考えるのではなく、JCI福岡だからできる夢を描いて行きましょう。それが、これから次世代を担うメンバーへの大きな礎となります。

しかしながら、現役メンバーの平均在籍年数が4年を切る現状は決して軽視をしてはならない物です。これから70周年を迎えさらに飛躍しようとする中、今までの拡大ターゲットだけではなく、広い視野での発掘を行い実際に活動できるメンバーの育成は必ず必要になります。そのためには、現役メンバーとシニアメンバーとの交流を行いより良い情報共有ができる関係性作りを行ってまいります。

交流を通じて得ることができる様々な成長のチャンスを活かし、メンバー一人ひとりが最大限に活動できる関係性を創造し、受け継がれてきた絆を重んじ新たな試みへ挑戦する設営に取り組んでまいります。

# 会 員 交 流 委 員 会

## 委員会スローガン【百花繚乱】



委員長 安田 拓 司  
 副委員長 小柳 佑 貴  
 統括幹事 後藤 浩 之  
 運営幹事 松本 高 行  
 会計幹事 加地 優 紀  
 広報・拡大幹事 市丸 浩 太  
 石田 光 彦  
 大前 恒 明  
 亀井 亮 太  
 北崎 陽 介  
 富田 雄 詞  
 廣田 匡 則  
 藤木 稔 大  
 山田 一 貴

### ●基本方針

2020年より世界的に大流行している新型コロナウイルス感染拡大は、人と人の接触を断ち、これまで連続と紡いできたLOMの交流事業にも大きな影響を与えました。持続可能なFUKUOKAの実現に向けて、ウィズコロナ、アフターコロナの入り混じる社会情勢であっても、新たな視点で時代に即し、希薄となってしまった現役メンバー間およびシニアメンバーとの交流を、2022年度を転機に再び生み出す必要があります。

まずは、同じ志を持つ仲間との交流ができる状況を創出するために、JC歴、年齢、役職、所属委員会、室などの枠を越えた交流事業を企画・実施し、会員間での交流を推進します。そして、各趣味の会では、会員交流委員会が率先してシニアメンバーとの交流を深め、歴史と伝統を理解した設営や運営並びに支援を行い、現役メンバーとシニアメンバーとの交流を深める一助にします。さらに、九州地区協議会並びに福岡ブロック協議会とビジョンを共有するために、出向者と情報共有を図るとともに、例会や委員会訪問などでSNSを含む広報で、福岡県内で実施される九州地区大会(糸島)、福岡ブロック大会(つくし)への参加を促進します。

また、入会一周年を迎えたメンバーのお祝いのために、LOMメンバー全員が対象者を知る事業を行い、同期会の友情がさらなる結束を深めることができ、LOM全体の結束を深める事業を行います。

会員交流委員会では「百花繚乱」のスローガンのもと、所務を通して個々の特色を活かして参ります。利他の精神で仲間のために行動し、仲間の隠れた汗かきを想像し、何事にも全力で向き合うことを委員会メンバー全員で実践してまいります。また、委員会メンバー一人ひとりに責任を持たせ、個性を活かした結果、個性が混ざり合いそれぞれが最大限に輝き、且つ生涯の絆が生まれる委員会を実現致します。

### ●事業計画

- ◇会員間の交流に関する事業の企画・実施に関する事項
  - 〈目的〉新型コロナウイルス感染拡大によって希薄となった仲間との交流を創出すること。
  - 〈方法〉委員会の枠を越えたLOM全体が一体となる交流事業を企画・実施をする。
- ◇趣味の会に関する事項
  - 〈目的〉現役メンバーとシニアメンバーとの交流を深めること。
  - 〈方法〉各趣味の会の歴史と伝統を理解した設営・運営並びに支援を行う。
- ◇九州地区大会(糸島)、福岡ブロック大会(つくし)への参加促進に関する事項
  - 〈目的〉九州地区協議会並びに福岡ブロック協議会とビジョンを共有すること。
  - 〈方法〉出向者と情報共有を図り、開催地の文化や歴史を事前に調べ、例会、委員会訪問やSNS等を活用し、LOM内に広報を行い、大会の意義や目的を伝える事で参加促進を進める。
- ◇入会一周年のお祝いに関する事項(3月・6月・10月)
  - 〈目的〉LOM全体の結束を深めるために、入会一周年を迎えたメンバーをお祝いすること。
  - 〈方法〉同期の友情の結束を深めるとともに、LOMメンバー全員が対象者を知る事業を行う。
- ◇会員拡大・研修に関する事項
  - 〈目的〉会員拡大は、LOMの最重要課題である。「拡大なくしてJCI福岡の未来なし」という強い意識をLOMメンバーがもち、拡大対象者にJCI福岡の魅力や活動を伝え会員拡大を行うこと。また研修に関しては、誰かのために率先して行動し、品格あるJAYCEEへの育成を行うこと。
  - 〈方法〉LOMメンバー全員がJCI福岡の魅力や活動を伝えられる準備をしておき情報発信・共有を随時行う。委員会においてもメンバー同士で情報共有を行い、広報・拡大幹事がその推進役を担う。仮入会者の研修においては、礼儀・礼節を重んじ、自ら考え行動する習慣を身につけ、自己を見直す事ができるよう意識的に行動する。
- ◇非常災害時における支援に関する事項
  - 〈目的〉非常災害が発生した時に、迅速に災害支援を行いまちに貢献すること。
  - 〈方法〉日常的に防災意識を持ち、非常災害時に当事者意識を持ち迅速に行動できるように努める。

### 委員会年間スケジュール

	上程スケジュール	行 事		上程スケジュール	行 事
2021年					
11月			6月	入会一周年のお祝い(FLUKE)事業実施	オールメンバーの集い ブロック大会(つくし)、JCI香港シティ周年 じゃがいもクラブ ぼうふら会 FJCボンスクラブ(九州地区大会)
12月			7月	□討議□協議□協議□審議(会員間の交流に関する事業計画)	国際アカデミー サマーコンファレンス 迷球会(第3エリア野球大会)
2022年			8月	会員間の交流に関する事業 事業実施 □事業概要提出(入会一周年のお祝い(おもちゃ箱))	九州コンファレンス(糸島) 迷球会(福岡ブロック大会)
1月	□事業概要提出(入会一周年のお祝い(Haishen29))	京都会議 茶道同好会	9月		全国大会(大分) JCIサウスサイゴン周年 じゃがいもクラブ ぼうふら会 迷球会(九州地区大会)
2月		第3エリア合同例会	10月	入会一周年のお祝い(おもちゃ箱)事業実施 □討議□審議□協議□審議(会員間の交流に関する事業報告)	FJCボンスクラブ(全国大会)
3月	入会一周年のお祝い(Haishen29) 事業実施 □討議□協議□協議□協議(会員間の交流に関する事業計画)	じゃがいもクラブ ぼうふら会	11月		世界会議(香港)
4月	□事業概要提出(入会一周年のお祝い(FLUKE)) □討議□協議□協議□協議(会員間の交流に関する事業計画)		12月		送るタバ じゃがいもクラブ ぼうふら会
5月	□討議□審議□協議□審議(会員間の交流に関する事業計画)	ASPAC(堺高石) JCI下関周年 JCI広島定期交歓会 フーサイドクラブ(全国大会)			

# 親 睦 交 流 委 員 会

## 委員会スローガン【人の喜びを自分の喜びに】



委員長 本村 大  
副委員長 伊達 高志郎  
統括幹事 中川 光雄  
運営幹事 岩切 拓也  
会計幹事 宮崎 祥平  
広報・拡大幹事 山田 依未  
加藤 宏  
坂田 裕之  
谷川 進也  
古澤 正博  
丸野 正利  
本園 和大  
山口 望  
吉 戒 祥太郎

### ●基本方針

JCにはあらゆる機会が存在し、その機会を与えてくれるのは先輩であり、仲間の存在です。その機会の過程の中で共に苦難を乗り越えていくからこそ、自己の成長を促し、かけがえのない仲間を作ることができます。これこそがJCI福岡の強さであり伝統です。今後JC活動の内容や形態が変わったとしても、シニアメンバーと友好JCとの機会を推進する必要があります。また、近年は各種大会への参加の機会を奪われており、そのなかでも全国大会の意義を伝えることができず、その意義をメンバーに正しく伝えることでJC運動を共有する必要があります。

親睦交流委員会では卒業生にとって大きな事業である全国大会（大分）及びLOMナイトの企画設営、送る夕べの企画設営を行います。全国大会では、その意義を理解していただく為に参加促進を行い、LOMナイトではこれまで功績を残された卒業生にスポットを当て、送る夕べにつなぐ設営を行います。そして送る夕べ当日までに卒業生である57年生と親睦を深めていき、これまでの57年生の功績、卒業生の想いを知り、現役メンバーへつないでいく場作りを行います。また、送る夕べを通じて他委員会とも連携を取り、シニアメンバーとの交流の機会を創出し新たな学びの場を提供します。

最後に、JCでの最大の醍醐味は人との出会いです。一つひとつの集いや機会を有意義で楽しいものにし、かけがえのない仲間づくりを行います。また、メンバーシップ交流室にて共に連携を取り、シニアメンバーをはじめ、多くの人との交流と出会いの機会を作ることで委員会メンバー全員の成長につなげてまいります。そして「人の喜びを自分の喜び」と感じることができるよう奉仕の精神を持ち、率先して行動できる人づくりを行い、自分自身での「転機」となる1年間を作ってまいります。

### ●事業計画

#### ◇卒業生を送る夕べの企画・実施

〈目的〉JCI福岡を卒業される57年生の皆様の新しい門出を、現役メンバーやシニアメンバーと共に祝いし、感謝と現役メンバーへの想いをつなげる場を企画・実施すること。

〈方法〉定期的に57年生との交流の場をつくることで卒業生同士の絆を深め、思い出深い送る夕べとなるように設営を行う。また、より多くのシニアメンバーや卒業生のご家族にも参加頂けるように参加促進を行う。

#### ◇シニアクラブに関する事項（シニア総会の運営支援）

〈目的〉シニア総会の運営支援を行い、前年度の会計報告ならびに本年度の活動内容を、シニアメンバーへお伝えするとともに交流の機会を創出すること。

〈方法〉シニア会長、シニア専務、昭和56年生とも連携をとり、入会の挨拶と還暦を迎える昭和37年生の先輩方をお祝いの設営を行う。

#### ◇全国大会（大分）の参加促進及びLOMナイトの企画・実施

〈目的〉JCI福岡のメンバーに全国大会の意義を知っていただき、LOMナイトでは卒業される57年生一人ひとりを知っていただき、メンバー同士の懇親を深め送る夕べへとつなげること。

〈方法〉卒業生にとって大きな事業となるため、卒業生には積極的にJCI日本主催の卒業式に参加していただき、メンバーにも日本JCのプログラムに参加いただくことで大会の意義であるJC運動を共有する。LOMナイトでは事前に現地調査を行い、全国大会の各種行事を案内し記憶に残るLOMナイトを設営する。

#### ◇JCI広島との交流に関する事項

〈目的〉広島定期交換会において友好JCであるJCI広島との交流を図り交流の歴史を引き継ぐこと。

〈方法〉JCI広島との交流を図り情報交換と新たな仲間作りの場の設営を行う。

#### ◇会員拡大・研修に関する事項

〈目的〉会員拡大は、LOMの最重要課題である。「拡大なくしてJCI福岡の未来なし」という強い意識をLOMメンバーがもち、拡大対象者にJCI福岡の魅力や会員拡大を行うこと。また研修に関しては、誰かのために率先して行動し、品格あるJAYCEEへの育成を行うこと。

〈方法〉LOMメンバー全員がJCI福岡の魅力や活動を伝えられる準備をしておき情報発信・共有を随時行う。委員会においてもメンバー同士で情報共有を行い、広報・拡大幹事がその推進役を担う。仮入会者の研修においては、礼儀・礼節を重んじ、自ら考え行動する習慣を身につけ、自己を見直すことができるよう意識的に行動する。

#### ◇非常災害時における支援に関する事項

〈目的〉非常災害が発生した時に、迅速に災害支援を行いまちに貢献すること。

〈方法〉日常的に防災意識を持ち、非常災害時に当事者意識を持ち迅速に行動できるように努める。

### 委員会年間スケジュール

	上程スケジュール	行 事		上程スケジュール	行 事
2021年					
11月			6月	□討議□協議□協議□協議（送る夕べ事業計画）	ロールメンバーの集い ブロック大会（つくし） JCI香港シティ周年
12月			7月	□討議□審議□協議□審議（送る夕べ事業計画）	国際アカデミー サマーコンファレンス
2022年					
1月		京都会議	8月		九州コンファレンス（糸島）
2月		第3エリア合同例会 シニア総会	9月		
3月			10月		全国大会（大分） JCIサウスサイゴン周年
4月			11月		世界会議（香港）
5月	□討議□協議□協議□協議（送る夕べ事業計画）	ASPAC（堺高石） JCI下関周年 JCI広島定期交換会	12月		送る夕べ

# 拡 大 交 流 委 員 会

## 委員会スローガン【BE THE CHANGE ～未来の LOM が、あなたの一步を待っている～】



委員長 吉田 豊  
副委員長 武田 哲志  
統括幹事 山本 直史  
運営幹事 武内 友友  
会計幹事 浦田 慎也  
広報・拡大幹事 坪井 智之  
池田 聡  
木下 雅俊  
豊島 知  
中野 篤志  
中村 正史  
西口 昌宏  
村山 真人

### ●基本方針

単年度制というJCの特性の中で、会員拡大は途絶えることのない継続的なものである。JCI福岡創立69年の歴史の中で、様々な社会的課題に着目し、「利他の精神」をもって集い切磋琢磨することで、まちに提言を行い、まちに根差した事業も多く生み出してきました。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大を契機に我々自身「集うこと」に制限がかかり、また人と人との「交流」という概念に大きな変化が現れ、対面でのニューノーマルに適したコミュニケーション方法が必要となってきました。こうした状況下の中、会員拡大が滞れば会員数が減少することは当然のこと、LOMの事業予算の減少、行政との連携、国際的なネットワークが希薄化し、福岡のまちにおける唯一無二の団体としての独自性が失われて、ひいては我々の持続的な運動を展開することができなくなる恐れがあります。

だからこそ我々は、近年の会員数停滞に歯止めをかけ、ウィズコロナ・アフターコロナとなった今、JCI Missionに立ち返り会員拡大を通じ我々の使命を再認識し、また新しい人材の才能・エネルギーを組織にもたらすことで多様性と新陳代謝が生まれ、より魅力的で強固な組織へと成ることを理解することが必要となります。今後、会員拡大の好循環が生まれる転機ともなる2023年の創立70周年、2024年の全国大会開催を控えています。この機会を最大限生かす為にも、シニアメンバーとの交流・連携を密にすることで、JCI福岡が一枚岩となり、そしてなにより、一人ひとりが明るい豊かな社会を築くことにつながるJC活動に、自信と誇りをもつことが重要であります。

最後に、当委員会メンバー全員で一致団結し、目標達成の為に会員拡大活動に向き合って参ります。JC運動の根幹を担っている責任感と未来のLOMを想い、現在のLOMの基盤を確固たるものにするワクワク感をもち、人と人の交流を大切に、生涯の友となれる信頼関係を構築できる委員会運営を行って参ります。

### ●事業計画

#### ◇会員拡大の推進

〈目的〉JCI福岡を未来に繋いでいく為、LOM全体で会員拡大を行うこと。※拡大目標120名

〈方法〉会員全員が組織の新陳代謝により日頃のJC活動が行えることを認識できるよう、会員拡大事業が最重要課題であることの重要性を発信し、拡大対象者にJCI福岡の魅力伝えていく。

#### ◇拡大推進会議の設営・運営に関する事項

〈目的〉LOM全体で会員拡大に取り組む為の、拡大情報・進捗状況の共有・確認・依頼を行うこと。

〈方法〉月に一度、理事会前に委員長及び広報拡大幹事を集め拡大に関する会議を実施する。

#### ◇シニアクラブとの交流促進に関する事項

〈目的〉シニアメンバーとの交流促進の実施することで、より良い絆を深めること。

〈方法〉46年会～56年会の同窓会を企画・設営し、メンバーシップ交流室が丸一丸となって、公式行事以外でもシニアメンバーと現役メンバーとが交流できる機会を創出する。

#### ◇オールメンバーの集いの企画・実施

〈目的〉JCI福岡の69周年をシニアメンバーと現役メンバーが一堂に集いお祝いをすると共に、より多くの交流を深める場を設営すること。

〈方法〉ウィズコロナ、アフターコロナにおける周年事業、交流の場としての企画を再検証し、参加促進に繋がる情報収集、共有、発信に努める活動を行う。

#### ◇JCI粕屋の拡大支援に関する事項

〈目的〉スポンサーJCとして役割である新設JCの中心となる者を支援し、協力要請がある際には積極的に実施すること。

〈方法〉JCI粕屋の拡大支援依頼があった場合には、組織的かつ効果的なサポートを実施する。

#### ◇研修に関する事項

〈目的〉研修に関しては、誰かのために率先して行動し、品格あるJAYCEEへの育成を行うこと。

〈方法〉仮入会者の研修においては、礼儀・礼節を重んじ、自ら考え行動する習慣を身につけ、自己を見直す事ができるよう意識的に行動する。

#### ◇非情災害時における支援に関する事項

〈目的〉非常災害が発生した時に、迅速に災害支援を行いまちに貢献すること。

〈方法〉日常的に防災意識を持ち、非常災害時に当事者意識を持ち迅速に行動できるように努める。

## 委員会年間スケジュール

	上程スケジュール	行 事	上程スケジュール	行 事
2021年				
11月			6月	オールメンバーの集い ブロック大会(つくし) JCI香港シティ周年
12月			7月	国際アカデミー サマーコンファレンス
2022年				
1月	□討議□協議□協議□協議(オールメンバーの集い事業計画)	京都会議	8月	□討議□審議□協議□審議(オールメンバーの集い事業報告)
2月	□討議□協議□協議□協議(オールメンバーの集い事業計画)	第3エリア合同例会 シニア総会	9月	
3月	□討議□審議□協議□審議(オールメンバーの集い事業計画)		10月	全国大会(大分) JCIサウスサイゴン周年
4月		入会審査(中期)	11月	世界会議(香港) 入会審査(次年度前期)
5月		JCI広島定期交換会 JCI下関周年 ASPAC(堺・高石)	12月	送るタベ



室 長 原 翼

## ●基本方針

モノ消費からコト消費へと国民の意識が変化しているこの時代において、JCにおいても「何をやるかではなく」ではなく、「何のためにやるのか。それをやることによって社会にどのような良い影響を与えられるのか」といった本質の部分が必要とされています。

2022年度広報渉外室は、変化の激しい時代においても、背景・目的を見誤ることなく突き進むJCI福岡を発信し続け、対内メンバーのみならず、一人でも多くの市民に我々JCI福岡の想いや考え、そこから生まれる運動や活動をお伝えすることによって、能動的な市民へと意識を変化させます。また、JCI福岡のメンバーの中には勇気をもってJCI日本、九州地区協議会、福岡ブロック協議会へと出向してくれているメンバーが多く存在します。グローバル社会と言われるこの時代において、小さな枠組みやエリア、今までのやり方に縛られていては時代の変化に取り残されてしまうのは言うまでもなく、出向者には最大限に自身の能力を発揮しやすい環境を整えることで、出向を通して様々な経験や価値観を体得し、それらの経験や価値観をJCI福岡のメンバーに伝播させることによって、より強固な、最も社会から必要とされるJCI福岡へと昇華させます。

## 委員会スローガン【Inspire the FUKUOKA】



委員長 河野 将 侑  
副委員長 近 永 征 也  
統括幹事 田 中 隆 志  
運営幹事 本 間 晃 平  
会計幹事 河 面 洋 平  
広報・拡大幹事 近 藤 圭 圭  
安 部 亮 二  
石 崎 崇 義  
後 藤 雄 治  
辻 亮 一  
松 岡 慎 治  
三 上 滉 貴  
宮 崎 典 子

### ●基本方針

JCI福岡は、設立から69年様々な時代の中で、このまちに根付いている多くの事業を残しています。しかし、その始まりがJCI福岡だということを知らない人が多くいることも事実です。また各委員会が素晴らしい事業を行い、そこに多くの人が関わっていますが、縦割りの単年度制という特徴もあり、関わる回数が1回で終わってしまっていることも、我々の活動をより地域の運動へと発展させるための課題だと感じています。

そこで広報委員会が横断的に各委員会を取材し、JCI福岡の運動を発信し、まちの人たちの認知につなげ、内外一体となった運動へと波及するために、WEBサイトをはじめ、SNS、プレスリリース等を活用致します。情報の種類も事業実施後の報告だけではなく、事前PRや、事業実施までの過程にもフォーカスします。また既存のツールだけに捉われず、時代の変化に合わせたツールを活用することで、これまでJCI福岡のことを知る機会が少なかった層への情報発信も、新たな情報ツールを使い積極的にを行います。それにより外部にファンを増やし、メンバーが家族や同僚などに自慢したくなる発信を行います。

広報委員会が、取材を通して関係性を深めて、JCI福岡の素晴らしさやメンバーの想いを発信し続けることで、仲間の眠っている魅力を引き出し、メンバーやLOMに影響を与え続けるリーダーを輩出する委員会にします。そして気づけば自分の魅力が増したと成長を実感できる1年にします。

### ●事業計画

- LOM運動の広報手法を調査・研究し、効果的な情報発信の実施
- ◇LOMホームページの企画・管理・運営に関する事項
  - 〈目的〉 JCI福岡の取り組みや事業を広く対内・対外ともに情報発信すること。
  - 〈方法〉 ホームページのリニューアルを行い、随時更新し対内・対外に情報発信を行う。
- ◇LOM紹介映像の制作に関する事項
  - 〈目的〉 対外：JCI福岡のことを外部に発信し、知っていただき、共感していただくこと。
  - 対内：JCI福岡での活動のモチベーションにつながる情報を動画で伝えること。
  - 〈方法〉 2022年度版のLOM紹介映像を作り、ホームページやSNSでの発信で人々が目にする機会を増やす。また新春例会はじめ各種事業で放映し、メンバーが見る機会を増やす。
- ◇SNSを利用した各種行事・プレスリリースに関する情報発信
  - 〈目的〉 時代に合わせたSNSツールを使い、広くJCI福岡の活動を認知してもらうこと。
  - 〈方法〉 LINE公式アカウント、Facebook、Twitterなど様々なツールを活用し随時情報発信を行う。
- ◇LINE公式アカウントを利用した情報発信の管理・運営
  - 〈目的〉 対内へのスケジュールや活動レポートを広報し、メンバーが素早くLOMの情報に触れることで、活動を活性化すること。
  - 〈方法〉 リッチメニューの制作も行い、定期的な連絡の中でメンバーが触れる情報を増やす。
- ◇趣味の会に関する事項の発信
  - 〈目的〉 趣味の会の情報を収集し、メンバーが関係構築する機会を増やす。対外へも広報しJCI福岡の魅力を訴求すること。
  - 〈方法〉 SNSツールを活用し、趣味の会にも広報委員会が取材に赴き、情報発信する。
- LOM活動の効果的な対外情報発信（ブランディングに関する管理・総括）
  - ◇外部団体からの取材などに関する対応
    - 〈目的〉 外部団体と友好的な関係を築き、有意義な情報交換を図る体制を整備し、外部からの取材依頼などにも迅速に対応できる体制を構築すること。
    - 〈方法〉 他団体の集会にも積極的に参加する。また能動的に取材が入るように情報交換を行なう。
  - ◇YouTube等の動画共有サイトを利用した情報発信の管理・運営
    - 〈目的〉 JCI福岡のブランディング向上を図ることで、内外に向けて魅力あるJCI福岡を発信することにつなぐ。
    - 〈方法〉 YouTubeの動画配信数を増やすとともに、散発的なSNSツールの使用ではなく、一度閲覧した人がファンになるよう、企画会議を行い、内容、発信方法の精度を高めていく。
  - ◇LOM活動における写真・動画等の記録・管理
    - 〈目的〉 様々な取り組みを未来のLOMの財産として残し、今後の発展に寄与すること。
    - 〈方法〉 各事業や集会に参加し、写真・動画を撮影する。万が一、当委員会メンバーが参加できない場合は、現地にいるメンバーに撮影を依頼する等の対応で記録を残す。
  - ◇マスメディア各社との継続的な提携関係構築に関する事項
    - 〈目的〉 JCI福岡の様々な取り組みや事業を、より多くの市民に発信すること。
    - 〈方法〉 JCI福岡に所属するマスメディア関連のメンバーと継続的に懇親を深め、関係性を強固なものにする。またJCI福岡未加入のマスメディアの方々ともコンタクトを取り、協力的な関係を築くと同時に、入会していただけるよう拡大活動にもつなげる。
  - ◇出向者活動の対内への情報発信に関する事項
    - 〈目的〉 出向者が安心して活動できる環境を整え、LOMメンバーに出向者の活躍を伝え、魅力とモチベーションを高めること。
    - 〈方法〉 出向者ともコミュニケーションを図り、活動情報をHPやSNS、LINE公式アカウントなどでメンバーに発信する。
  - ◇会員拡大・研修に関する事項
    - 〈目的〉 会員拡大は、LOMの最重要課題である。「拡大なくしてJCI福岡の未来なし」という強い意識をLOMメンバーがもち、拡大対象者にJCI福岡の魅力を伝え会員拡大を行うこと。また研修に関しては、誰かのために率先して行動し、品格あるJAYCEEへの育成を行うこと。
    - 〈方法〉 LOMメンバー全員がJCI福岡の魅力や活動を伝えられる準備をしておき情報発信・共有を随時行う。委員会においてもメンバー同士で情報共有を行い、広報・拡大幹事がその推進役を担う。仮入会者の研修においては、礼儀・礼節を重んじ、自ら考え行動する習慣を身につけ、自己を見直す事ができるよう意識的に行動する。
  - ◇非常災害時における支援に関する事項
    - 〈目的〉 非常災害が発生した時に、迅速に災害支援を行いまちに貢献すること。
    - 〈方法〉 日常的に防災意識を持ち、非常災害時に当事者意識を持ち迅速に行動できるように努める。

### 委員会年間スケジュール

上程スケジュール		行 事	上程スケジュール	行 事
2021年 11月	□討議□協議 ホームページ作成議案計画		6月	オールメンバーの集い ブロック大会(つくし) JCI香港シティ周年
12月	□討議□協議 ホームページ作成議案計画		7月	国際アカデミー サマーコンファレンス
2022年 1月		京都会議	8月	九州コンファレンス(糸島)
2月		第3エリア合同例会	9月	
3月			10月	全国大会(大分) JCIサウスサイゴン周年
4月			11月	世界会議(香港)
5月		ASPAC(堺高石) JCI下関周年 JCI広島定期交流会	12月	送る夕べ

# 渉 外 委 員 会

## 委員会スローガン【一期一会】



委員長 竹野 恵介  
副委員長 池田 祐一郎  
統括幹事 成富 崇智  
運営幹事 川添 裕土  
会計幹事 寺内 享忠  
広報・拡大幹事 高山 伸太郎  
上野 誠司  
首藤 光生  
鈴木 健太郎  
濱 直章  
宮内 貴仁  
横田 銀次  
吉山 槇一

### ●基本方針

我々JCI福岡が所属するJCIは日本国内に多くのLOMがあり、世界には128の国と地域に約15万人のメンバーがいます。そしてOBも含めると約250万人以上います。これは、我々のJC活動の中に数えきれない出会いや、計り知れない成長の機会が、そこにあるということです。その一つひとつの出会いを、生涯に一度しかない大切な機会と捉え、メンバーの成長とLOMの機会を創出することが求められています。

当委員会の目的として、出向することで得られる貴重な学びの機会を積極的に参加することで自身の成長へとつなげていくことです。そのためには、参加することでどのような気づきや学びが得られるかをわかり易く伝え積極的な参加につなげていきます。

出向者支援においては、JCI日本をはじめとする各協議会へ出向しているメンバーの活動を各種媒体を使い、多くのメンバーにできるだけ早く伝え出向者が関わる事業などに参加することで、JCI福岡から出向していることを誇りに感じていただけるようにしていきます。また、出向者とメンバーが交流する場を設けることで、出向したからこそその学びを共有していただきます。

そして私たち渉外委員会は、出向者や参加者支援を行うために率先した行動が求められます。そこで、JCI福岡が規律のとれた組織として、九州のリーディングLOMとして模範とされるような渉外活動を行うことがその職務であると考えます。

特に7月に行われるサマーコンファレンスでは、機会創出のための参加促進及び出向者の慰労とメンバーとの交流のためのLOMナイトの企画実施を行います。そして、2022年もコロナ禍により国際情勢が不透明と予想されますが、姉妹JCであるJCIサウスサイゴンと連絡を取り合い、最適な手段によって国際交流を図ります。

最後に、私たち渉外委員会は、関係諸団体と接する貴重な機会をいただけることに感謝し、委員会メンバー一人ひとりがこの「一期一会」の機会を学びに変えていきます。また、メンバーに対し率先垂範を基本とし、思いやりと気配りを意識して職務を全うすることによりメンバーのホスピタリティを養います。常に前向きな気持ちを持ち、委員会メンバー全員でチャレンジし、共に乗り越えることでかけがえのない友情を育みます。そして、互いを認め、労り、感謝し合うことで人間力を磨き、一年間を全員で駆け抜けていく委員会運営をおこないます。

### ●事業計画

#### ◇役員出向者の国内支援に関する事項

〈目的〉 JCI日本、九州地区協議会、福岡ブロック協議会に出向している役員への支援をすること。

〈方法〉 役員出向者と綿密にコミュニケーションを図り、すべてのスケジュールを把握・同行し、福岡開催などの集会や事業が開催される場合は最大限のサポートを行う。

#### ◇出向者の支援に関する事項

〈目的〉 JCI日本、九州地区協議会、福岡ブロック協議会などに出向しているメンバーへの支援をすること。

〈方法〉 出向者と綿密にコミュニケーションを図り、すべてのスケジュールを把握し、最適なサポートを行う。各種事業についても対内メンバーへ情報発信し続け参加促進に努める。

#### ◇出向者セミナーの企画・実施

〈目的〉 JCI日本、九州地区協議会、福岡ブロック協議会など出向への理解と参加促進を行うこと。

〈方法〉 2021年11月にセミナーの企画実施、2022年10月までにセミナーの企画実施をする。

#### ◇サマーコンファレンスの参加促進及びLOMナイトの企画・実施

〈目的〉 サマーコンファレンスの参加促進と出向者の慰労をすること。

〈方法〉 フォーラムとセミナーへの参加依頼及びLOMナイトの開催。

#### ◇JCIサウスサイゴンに関する事項含む国際の機会に関する事項

〈目的〉 姉妹JCであるJCIサウスサイゴンとの交流を通し国際の機会の創出すること。

〈方法〉 コロナ禍においてWEBなどの手法を用い最適な手段を考え国際交流を図る。

#### ◇会員拡大・研修に関する事項

〈目的〉 会員拡大は、LOMの最重要課題である。「拡大なくしてJCI福岡の未来なし」という強い意識をLOMメンバーがもち、拡大対象者にJCI福岡の魅力を伝え会員拡大を行うこと。また研修に関しては、誰かのために率先して行動し、品格あるJAYCEEへの育成を行うこと。

〈方法〉 LOMメンバー全員がJCI福岡の魅力や活動を伝えられる準備をしておき情報発信・共有を随時行う。委員会においてもメンバー同士で情報共有を行い、広報・拡大幹事がその推進役を担う。仮入会者の研修においては、礼儀・礼節を重んじ、自ら考え行動する習慣を身につけ、自己を見直す事ができるよう意識的に行動する。

#### ◇非常災害時における支援に関する事項

〈目的〉 非常災害が発生した時に、迅速に災害支援を行いまちに貢献すること。

〈方法〉 日常的に防災意識を持ち、非常災害時に当事者意識を持ち迅速に行動できるように努める。

### 委員会年間スケジュール

	上程スケジュール	行 事		上程スケジュール	行 事
2021年					
11月		出向者セミナー	6月		オールメンバーの集い ブロック大会(つくし) JCI香港シティ周年
12月			7月		国際アカデミー サマーコンファレンスLOMナイト
2022年					
1月		京都会議	8月		九州コンファレンス(糸島)
2月		第3エリア合同例会	9月		
3月			10月		全国大会(大分) JCIサウスサイゴン周年
4月			11月		世界会議(香港)
5月		ASPAC(堺高石) JCI下関周年、 JCI広島定期交歓会	12月		送るタベ



室長 奥膳 和時

## ●基本方針

一昨年から続く新型コロナウイルス蔓延により集合体の会議、例会が困難な状況に陥ってきました。本年はウィズコロナ、アフターコロナの入り混じる過渡期と考えられ、JCI福岡設立70周年、全国大会開催を先に控える重要な年でもあります。だからこそ、一つ一つの所務を新しい様式に合わせ、一から見直し、JCI日本が定める基準・規則への理解を深める年にする必要があります。

まず、例会においては、集うことが困難な状況であっても、例会の大切さをLOMメンバーに発信し、入会歴が浅いメンバーや参加ができていないメンバーも誘いやすい運営を行って参ります。また、家族や他LOMからも賞賛されるような、誰からも喜ばれる企画を心掛けます。

次に、総務財政規則委員会においてはJCI日本の財政面・コンプライアンス面・統一ルールを理解した上で、それをLOMメンバーに波及し精度の高い議案上程を促進していきます。またコロナ禍にも対応した内容であるのかしっかり精査し、誰からも理解が得られる議案作成の強化を徹底していきます。

JCメンバー一人ひとりが自問自答することで成長し、コロナ禍を転機とした新たな様式を生み出し、常識に捉われないニューノーマルなJCI福岡を実現します。

# 例 会 委 員 会

## 委員会スローガン【一人はみんなのために、みんなは一つの目的のために】

### ●基本方針

例会は、JCIに所属している意味を今一度理解することで襟を正し、委員会の枠を超えたメンバー同士の親睦を図り、情報交換やLOMが一体となる貴重な場であります。その貴重な例会に、全メンバーの参加義務があるものの、昨今から続く新型コロナウイルス蔓延という未曾有の事態において、参加が難しくなっているメンバーがいます。あらゆる困難な状況に陥ったとしても、例会に参加することは所属メンバーの義務であるからこそ、参加率の向上を図る必要があります。

まずは、例会の参画意識向上のために、委員会メンバーへの新春例会、第3エリア合同例会、ファミリーレクリエーション等の例会の意義を委員会メンバーへ伝え、それをLOMメンバーに伝播していきます。そのうえで、理事長の想い、各委員会の情報共有、メンバー同士の関係性がより深まる時間を過ごしていただけるような企画・設営を行います。さらに非常事態であっても、有意義な例会を開催できるようWEBを併用、駆使したオンライン例会を開催することで、集合型の開催が難しい状況でも支障が生じないよう運営をしていきます。また、通常例会では全国大会関連や設立70周年に向けて、過去に携わったシニアメンバーを含め、関連する内容を企画することで、LOMメンバーの意識の醸成を図ります。

例会は毎年ある所務ではありますが、今後のJCI福岡の活動、またLOMを一致団結していくうえで欠かせません。まずはLOMメンバー一人ひとりに例会の大切さを実感してもらい設営を心掛け、誰もが参加しやすい環境づくりを例会委員会が一丸となり、例会の参加率向上に努めます。

メンバー一人ひとりがJC活動を理解し、支えてくれている会社や家族への感謝を忘れず、メリハリある活動を心がけ、いただいている所務を委員会メンバー全員でまっとうし達成することで強固な絆を生んでいきます。共に挑戦し、共に支え合い成長することで一生の友となれるよう、友情と信頼でつながれた委員会を作ります。

### ●事業計画

#### ◇新春例会の企画・実施（1月）

〈目的〉新春の門出をメンバー全員で祝い、理事長の所信を聞き、2022年度のJCI福岡の方向性を理解し新たなスタートをきること。  
 〈方法〉来賓の方々をはじめ、全メンバーに集まっていたり、参加促進を行い、厳粛かつ華やかな雰囲気の中、会を行えるような会場設営・運営を行う。

#### ◇福岡ブロック第3エリア合同例会の企画・実施（2月）

〈目的〉福岡ブロック協議会の方針を理解するとともに、第3エリア内のメンバーと交流を図り、お互いのJC活動を理解し、結束を強めること。  
 〈方法〉主幹LOMであるJCIつくしを中心に、JCI朝倉、JCI糸島、JCI糟屋との連携を常に図り、福岡ブロックの方針を理解し、また5LOMの交流が図れる会の設営、運営を行う。

#### ◇通常例会の企画・実施（8月、11月）

〈目的〉LOMとして一体感を感じるとともに、メンバー同士のさらなる交流を深めること。  
 〈方法〉各委員会と常に連携をとり効率的な運営を行うとともに、しっかりと報告・連絡ができる会の設営を行う。

#### ◇短縮例会の企画・実施（6月、9月、12月）

〈目的〉全メンバーがLOMの現在の動き、方向性を再確認すること。  
 〈方法〉各委員会と連携をとり、効率的な運営を行うとともに、しっかりと報告・連絡ができる会の運営を行う。

#### ◇ファミリーレクリエーション例会の企画・実施（7月）

〈目的〉日々メンバーを支えて頂いているご家族への感謝を伝え、ご家族にJC活動を少しでも前向きに捉えてもらえるよう、また家族同士交流することで、メンバーが今後のJC活動を積極的に取り組める環境を作ること。  
 〈方法〉多くのメンバー・家族が参加でき、家族ぐるみの交流もでき、その家族が毎年のファミリーレクリエーションを楽しむにしていってほしいと思える会の設営・運営を行う。

#### ◇JCI糟屋の例会支援に関する事項

〈目的〉JCI糟屋の今後の発展のため、例会においての適切なアドバイス、サポートを行うこと。  
 〈方法〉例会支援依頼があった場合には、組織的かつ効果的なサポートを行う。

#### ◇会員拡大・研修に関する事項

〈目的〉会員拡大は、LOMの最重要課題である。「拡大なくしてJCI福岡の未来なし」という強い意識をLOMメンバーがもち、拡大対象者にJCI福岡の魅力や活動を伝え会員拡大を行うこと。また研修に関しては、誰かのために率先して行動し、品格あるJAYCEEへの育成を行うこと。

〈方法〉LOMメンバー全員がJCI福岡の魅力や活動を伝えられる準備をしておき情報発信・共有を随時行う。委員会においてもメンバー同士で情報共有を行い、広報・拡大幹事がその推進役を担う。仮入会者の研修においては、礼儀・礼節を重んじ、自ら考え行動する習慣を身につけ、自己を見直す事ができるよう意識的に行動する。

#### ◇非常災害時における支援に関する事項

〈目的〉非常災害が発生した時に、迅速に災害支援を行いまちに貢献すること。  
 〈方法〉日常的に防災意識を持ち、非常災害時に当事者意識を持ち迅速に行動できるように努める。

委員長 田 雑 嘉 貢  
 副委員長 日 野 修 治  
 統括幹事 小 林 大 介  
 運営幹事 村 上 瑤 浩  
 会計幹事 津 田 浩 太  
 広報・拡大幹事 那 須 亮 太  
 池 田 拓 史  
 新 家 正 久  
 菅 原 是 道  
 高 山 剛 利  
 武 本 一 純  
 三 角 純 康  
 吉 村 稔 稔

### 委員会年間スケジュール

	上程スケジュール	行 事	上程スケジュール	行 事
2021年 11月	□討議 □協議（新春例会事業企画）		□討議 □協議（8月度通常例会事業計画） □討議 □協議（9月度短縮例会事業計画）	事業実施（短縮例会） オールメンバーの集い 福岡ブロック大会（つくし） JCI香港シティ周年
12月	□討議 □審議（新春例会事業企画） □討議 □協議（第3エリア合同例会事業計画）		□討議 □審議（6月度短縮例会事業報告） □討議 □審議（8月度通常例会事業計画） □討議 □審議（9月度短縮例会事業計画）	事業実施（ファミリーレクリエーション例会） サマーコンファレンス 国際アカデミー
2022年 1月	□討議 □審議（第3エリア合同例会事業計画）	事業実施（新春例会） 京都会議	□討議 □審議 協議 審議（7月度ファミレク例会事業報告）	事業実施（通常例会） 九州コンファレンス（糸島）
2月	□討議 □審議（新春例会事業報告）	事業実施（第3エリア合同例会）	□討議 □審議（8月度通常例会事業報告） □討議 □協議（11月度通常例会事業計画）	事業実施（短縮例会）
3月	□討議 □協議（6月度短縮例会事業計画） □討議 □審議（第3エリア合同例会事業報告）		□討議 □審議（9月度短縮例会事業報告） □討議 □審議（11月度通常例会事業計画） □討議 □協議（12月度短縮例会事業計画）	全国大会（大分） JCIサウスサイゴン周年
4月	□討議 □審議（6月度短縮例会事業計画） □討議 □協議 □協議（7月度ファミレク例会事業計画）		□討議 □審議（12月度短縮例会事業計画）	事業実施（通常例会） 世界会議（香港）
5月	□討議 □審議 □協議 □審議（7月度ファミレク例会事業計画）	ASPAC（堺高石市） JCI下関周年 JCI広島定期交流会	□討議 □審議（11月度通常例会事業報告）	事業実施（短縮例会） 卒業生を送る夕べ

# 総務財政規則委員会

## 委員会スローガン【人を信じ、人を愛し、人に尽くす】



委員長 田崎 麗一朗  
副委員長 平松 雅敏  
統括幹事 手島 貴裕  
運営幹事 小木曾 圭太  
会計幹事 國松 祥治  
広報・拡大幹事 羽川 礼華  
甲木 正孝  
入江 幸治  
甲斐 祐樹  
白水 雄二  
手島 勇氣  
中間 悠介  
山下 宏一朗

### ●基本方針

JCI福岡は青年だからこそもてるアイデアと行動力により、福岡のまちやひとに豊かさをもたらすため事業を行っています。

これから70周年や全国大会が行われることを想定すると、大きな大会になるほど財政面、規則面が重要となってきます。SDGsなどの国際基準にも精通した、品質の高い議案構築、事業実施を今の段階からスタンダードなものとして取り組んでいく必要があります。

各委員会が多くの時間を割き、真剣に向き合い構築したすべての議案に対し、私たちはただでき上がったものを精査するのではなく、事業費はメンバーの会費が原資であるため、適正な会計処理は当然ながら、その効果を最大化していくための議論や、JCI MISSION・JCI VISIONに対応する事業に成長させるため、事業の最良化をめざし、各委員会のパートナーとなるべく尽力いたします。さらに一人ひとりの議案習熟度の底上げを図るために、副幹セミナーや財政規則セミナーを開催し、精度の高い議案上程ができるよう促していきます。

また、総務面においては、各会議体の設営・運営は事前準備に重きを置き、各種取りまとめの徹底、スムーズな会の進行を心掛け、より有益な会議体とするべく委員会メンバー全員で取り組んで参ります。

総務財政規則委員会は、JCI福岡を総務面・財政規則面から支える中心地であり、各会議体、各事業の下支えをしっかりと行うことで、まちを豊かにし、人に笑顔をもたらす事ができます。委員会メンバー一人ひとりがその自覚をもち、この一年「人を信じ、人を愛し、人に尽くす」というスローガンを意識し、自分のためだけでなく、「誰かのために、誰かを想い」行動することで奉仕の心をもつことができ、70周年や全国大会を見据えた中心的存在となるJAYCEEを育成します。

### ●事業計画

#### ◇委員会事業に関する予算、決算の事前審査

〈目的〉メンバーからの会費を有効的に、また効果を最大化できるように事業予算が適正に計画され、実行されているかを厳正に審査すること。

〈方法〉各事業において、背景・目的・手法を確認し、予算が適正に使用・処理されているかを精査する。

#### ◇委員会事業に関するコンプライアンスの事前審査

〈目的〉各事業がコンプライアンス上適正なものであるかを審査し、JCとしてのルール、社会一般のルールを遵守していくこと。

〈方法〉事業内容がコンプライアンスに則っているか、JCとしてのルールと社会通念上の規範を逸脱していないかを審査する。

#### ◇総会、理事会、常任理事会の設営・運営

〈目的〉各会議体の効率化を求め、より有益性の高い会議を運営し、JCI福岡としての意思を明確にすること。

〈方法〉各会議体において役割分担を明確化、出欠確認の徹底、時間厳守を行う。また、正確な議事録を作成し、決定した意思とそのプロセスを明確化する。

#### ◇各委員会の議案上程スケジュールの管理

〈目的〉各議案が適正に協議・審議されるように、各委員会に周知徹底すること。

〈方法〉上程スケジュールの締切りを徹底するため、クラウドシステムを利用し各議案状況を把握し、アナウンスを行う。

#### ◇各委員会の議案に関する審査

〈目的〉JCのルールに則った議案となるように整えること。

〈方法〉各議案に対し、統一語句、誤字脱字のチェックを行う。

#### ◇各委員会議事録、事業報告書の管理・保持

〈目的〉各委員会の活動内容を把握できるようにするため、各委員会の議事録を管理すること。また、今後の事業構築に資するため、事業報告書を管理すること。

〈方法〉各委員会への議事録・事業報告書の期限内提出のアナウンスを行う。また、広報委員会と連携しJCI福岡ホームページの会員ページで閲覧できるようにする。

#### ◇会員規律、入会に関する事項

〈目的〉会員規律の意義を周知徹底し、組織が永続的に続くように努めること。

〈方法〉正会員に会員規律の徹底を促し、新入会員には入会審査時に説明を行う。

#### ◇役員、副、幹事セミナーの設営・運営

〈目的〉各会の運営方法、スタッフの各役割を明確にし、セミナーを通じて全メンバーに周知し、委員会活動の円滑化を図ること。

〈方法〉セミナー資料を再構築し、要点や変更点などを説明する。またSDGsや、JCI MISSION、JCI VISIONなどを理解していただき、議案作成時、事業構築時の見識・視野を広げる一助とする。

# 総務財政規則委員会

- ◇議案構築・財政規則に関するセミナーの企画・実施
  - 〈目的〉財政面、規則面に関する知識や見識を深めていただき、より精度の高い議案や収支計画の実現をめざすこと。
  - 〈方法〉セミナー資料を再構築し、修正指摘が多い箇所を中心に分かりやすい説明をし、議案の精度を高めていただく。
- ◇会員褒賞の企画・実施
  - 〈目的〉会員のモチベーションが高くなるように、各種褒賞を設定すること。
  - 〈方法〉褒賞内容は分かりやすく、且つ取り組みやすいものとし、推薦方法および選考基準に不明瞭な部分がないように褒賞内容を企画する。
- ◇褒賞申請の作成（JCI・日本・地区・ブロック）
  - 〈目的〉当該年度の事業について、褒賞申請を行うことで、JCI福岡の魅力を全国に発信すること。
  - 〈方法〉褒賞内容の確認をし、申請の段取りを把握したうえで、申請を行う。
- ◇議案上程システムの調査・研究
  - 〈目的〉クラウド管理システム「G.I.JO」はアップデートが必要か、上程スケジュールについても弊害がないかを調査・研究し、よりよい議案上程システムの構築を行うこと。
  - 〈方法〉各委員会へのヒアリングを行い、現状の把握、課題の抽出を行う。
- ◇JCI糟屋の総務支援に関する事項
  - 〈目的〉JCI糟屋の今後の発展のため、総務面での適切なアドバイス、サポートを行うこと。
  - 〈方法〉JCI糟屋の担当者と密に連絡を取り合い、課題解決に向けた適切なアドバイス、サポートを行う。
- ◇会員拡大・研修に関する事項
  - 〈目的〉会員拡大は、LOMの最重要課題である。「拡大なくしてJCI福岡の未来なし」という強い意識をLOMメンバーがもち、拡大対象者にJCI福岡の魅力を伝え会員拡大を行うこと。また研修に関しては、誰かのために率先して行動し、品格あるJAYCEEへの育成を行うこと。
  - 〈方法〉LOMメンバー全員がJCI福岡の魅力や活動を伝えられる準備をしておき情報発信・共有を随時行う。委員会においてもメンバー同士で情報共有を行い、広報・拡大幹事がその推進役を担う。仮入会者の研修においては、礼儀・礼節を重んじ、自ら考え行動する習慣を身につけ、自己を見直す事ができるよう意識的に行動する。
- ◇非常災害時における支援に関する事項
  - 〈目的〉非常災害が発生した時に、迅速に災害支援を行いまちに貢献すること。
  - 〈方法〉日常的に防災意識を持ち、非常災害時に当事者意識を持ち迅速に行動できるように努める。

## 委員会年間スケジュール

	上程スケジュール	行 事		上程スケジュール	行 事
2021年 11月	<input type="checkbox"/> 討議 <input type="checkbox"/> 協議 (褒賞議案)		6月		オールメンバーの集い ブロック大会(つくし) JCI香港シテイ周年 5月度褒賞
12月	<input type="checkbox"/> 討議 <input type="checkbox"/> 協議 <input type="checkbox"/> 協議 <input type="checkbox"/> 協議 (褒賞議案)	入会審査(前期)	7月		国際アカデミー サマーコンファレンス 6月度褒賞
2022年 1月	<input type="checkbox"/> 討議 <input type="checkbox"/> 審議 <input type="checkbox"/> 協議 <input type="checkbox"/> 審議 (褒賞議案)	京都会議	8月		九州コンファレンス(糸島) 入会審査(後期) 7月度褒賞
2月		第3エリア合同例会	9月		
3月		2月度褒賞	10月		全国大会(大分) JCIサウスサイゴン周年 8月度褒賞 9月度褒賞
4月		入会審査(中期) 3月度褒賞	11月		世界会議(香港) 10月度褒賞
5月		ASPAC(堺高石) JCI下関周年 JCI広島定期交歓会 4月度褒賞	12月		送る夕べ 総会 入会審査(前期) 11月度褒賞

一般社団法人 福岡青年会議所  
2022年度 室・委員会 所務分掌規程

<p><b>■70周年準備室</b></p>	<p><b>■70周年交流委員会</b>  <input type="checkbox"/>70周年式典の企画                      <input type="checkbox"/>70周年記念懇親会の企画  <input type="checkbox"/>例会の企画・実施 (3月)                      <input type="checkbox"/>会員拡大・研修に関する事項  <input type="checkbox"/>非常災害時における支援に関する事項</p> <p><b>■70周年記念委員会</b>  <input type="checkbox"/>60周年からの事業調査・検証、及び70周年記念誌の作成  <input type="checkbox"/>70周年記念事業の企画                      <input type="checkbox"/>会員拡大・研修に関する事項  <input type="checkbox"/>非常災害時における支援に関する事項</p>
<p><b>■未来創造室</b></p>	<p><b>■国際都市創造委員会</b>  <input type="checkbox"/>国際連携に関する事業の企画・実施  <input type="checkbox"/>トリオ会議を含む国際の機会に関する事項の補助  <input type="checkbox"/>JCI香港シティに関する事項を含む国際の機会に関する事項  <input type="checkbox"/>JCIサウスサイゴンに関する事項を含む国際の機会に関する事項の補助  <input type="checkbox"/>ASPAC(堺高石市)の参加促進及びLOMナイトの企画・実施  <input type="checkbox"/>世界会議(香港)の参加促進                      <input type="checkbox"/>公開例会の企画・実施 (4月)  <input type="checkbox"/>会員拡大・研修に関する事項                      <input type="checkbox"/>非常災害時における支援に関する事項</p> <p><b>■FUKUOKA創造委員会</b>  <input type="checkbox"/>行政・各種団体との連携に関する事業の企画・実施  <input type="checkbox"/>行政・各種団体との連携に関する調査・研究  <input type="checkbox"/>公開例会の企画・実施 (5月)  <input type="checkbox"/>JCI香港シティに関する事項を含む国際の機会に関する事項の補助  <input type="checkbox"/>会員拡大・研修に関する事項                      <input type="checkbox"/>非常災害時における支援に関する事項</p> <p><b>■未来デザイン創造委員会</b>  <input type="checkbox"/>持続可能な福岡のまちを創造する提言・発信  <input type="checkbox"/>持続可能な福岡のまちの調査・研究  <input type="checkbox"/>ウィズコロナ、アフターコロナにおけるJCI福岡独自のカンファレンスガイドラインの策定  <input type="checkbox"/>トリオ会議を含む国際の機会に関する事項  <input type="checkbox"/>会員拡大・研修に関する事項                      <input type="checkbox"/>非常災害時における支援に関する事項</p>
<p><b>■人財育成室</b></p>	<p><b>■Kids JAYCEE育成委員会</b>  <input type="checkbox"/>Kids JAYCEE第四期生の募集と育成に関する事業の企画・実施  <input type="checkbox"/>合同公開例会の企画・実施 (10月)                      <input type="checkbox"/>会員拡大・研修に関する事項  <input type="checkbox"/>非常災害時における支援に関する事項</p> <p><b>■Young JAYCEE育成委員会</b>  <input type="checkbox"/>Young JAYCEE第四期生の募集と育成に関する事業の企画・実施  <input type="checkbox"/>合同公開例会の企画・実施 (10月)                      <input type="checkbox"/>会員拡大・研修に関する事項  <input type="checkbox"/>非常災害時における支援に関する事項</p> <p><b>■研修委員会</b>  <input type="checkbox"/>仮入会者への指導・研修に関する事項  <input type="checkbox"/>仮入会者へのオリエンテーションの企画・実施  <input type="checkbox"/>やすらぎ荘に関する事項                      <input type="checkbox"/>新入会同期会事業に関する事項  <input type="checkbox"/>JCI糟屋の研修支援に関する事項                      <input type="checkbox"/>会員拡大に関する事項  <input type="checkbox"/>非常災害時における支援に関する事項</p>
<p><b>■メンバーシップ交流室</b></p>	<p><b>■会員交流委員会</b>  <input type="checkbox"/>会員間の交流に関する事業の企画・実施  <input type="checkbox"/>趣味の会に関する事項              ◇じゃがいもクラブ・ぼうふら会の設営・運営              ◇茶道同好会・迷球会・FJCボンズクラブ・ノーサイドクラブの支援  <input type="checkbox"/>福岡ブロック大会(つくし)・九州地区大会(糸島)への参加促進  <input type="checkbox"/>入会一周年のお祝いに関する事項 (3月・6月・10月)  <input type="checkbox"/>会員拡大・研修に関する事項                      <input type="checkbox"/>非常災害時における支援に関する事項</p> <p><b>■親睦交流委員会</b>  <input type="checkbox"/>卒業生を送る夕べの企画・実施  <input type="checkbox"/>シニアクラブに関する事項 (シニア総会の運営支援)  <input type="checkbox"/>全国大会(大分)の参加促進及びLOMナイトの企画・実施  <input type="checkbox"/>JCI広島との交流に関する事項                      <input type="checkbox"/>会員拡大・研修に関する事項  <input type="checkbox"/>非常災害時における支援に関する事項</p> <p><b>■拡大交流委員会</b>  <input type="checkbox"/>会員拡大の推進                      <input type="checkbox"/>拡大推進会議の設営・運営  <input type="checkbox"/>シニアクラブとの交流促進に関する事項  <input type="checkbox"/>オールメンバーの集いの企画・実施  <input type="checkbox"/>JCI糟屋の拡大支援に関する事項                      <input type="checkbox"/>研修に関する事項  <input type="checkbox"/>非常災害時における支援に関する事項</p>

<b>■広報渉外室</b>	<b>■広報委員会</b> <input type="checkbox"/> LOM運動の広報手法を調査・研究し、効果的な情報発信の実施 <input type="checkbox"/> LOMホームページの更新・管理・運営 <input type="checkbox"/> LOM紹介映像の制作 <input type="checkbox"/> SNSを利用した各種行事・プレスリリースに関する情報発信 <input type="checkbox"/> SNSを利用した情報発信の管理・運営 <input type="checkbox"/> LINE@を利用した情報発信の管理・運営 <input type="checkbox"/> 趣味の会に関する事項の発信 <input type="checkbox"/> LOM活動の効果的な対外情報発信（ブランディング）に関する管理・統括 <input type="checkbox"/> 外部団体からの取材などに関する対応 <input type="checkbox"/> YouTube等の動画共有サイトを利用した情報発信の管理・運営 <input type="checkbox"/> LOM活動における写真・動画などの記録・管理 <input type="checkbox"/> マスメディア各社との継続的な提携関係構築に関する事項 <input type="checkbox"/> 出向者活動の対内への情報発信に関する事項 <input type="checkbox"/> JCI糟屋の広報支援に関する事項 <input type="checkbox"/> 会員拡大・研修に関する事項 <input type="checkbox"/> 非常災害時における支援に関する事項
	<b>■渉外委員会</b> <input type="checkbox"/> 役員出向者の国内支援に関する事項 <input type="checkbox"/> 出向者の支援に関する事項 <input type="checkbox"/> 出向者セミナーの企画・実施 <input type="checkbox"/> サマーコンファレンスの参加促進及びLOMナイトの企画・実施 <input type="checkbox"/> JCIサウスサイゴンに関する事項含む国際の機会に関する事項 <input type="checkbox"/> 会員拡大・研修に関する事項 <input type="checkbox"/> 非常災害時における支援に関する事項
<b>■総務室</b>	<b>■例会委員会</b> <input type="checkbox"/> 新春例会の企画・実施（1月） <input type="checkbox"/> 福岡ブロック第3エリア合同例会の企画・実施（2月） <input type="checkbox"/> 例会の企画・実施（8月・11月） <input type="checkbox"/> 短縮例会の企画・実施（6月・9月・12月） <input type="checkbox"/> ファミリーレクリエーション例会の企画・実施（7月） <input type="checkbox"/> JCI糟屋の例会支援に関する事項 <input type="checkbox"/> 会員拡大・研修に関する事項 <input type="checkbox"/> 非常災害時における支援に関する事項
	<b>■総務財政規則委員会</b> <input type="checkbox"/> 委員会事業に関する予算、決算の事前審査 <input type="checkbox"/> 委員会事業に関するコンプライアンスの事前審査 <input type="checkbox"/> 総会、理事会、常任理事会の設営・運営 <input type="checkbox"/> 各委員会の議案上程スケジュールの管理 <input type="checkbox"/> 各委員会の議案に関する審査 <input type="checkbox"/> 各委員会議事録、事業報告書の管理・保持 <input type="checkbox"/> 会員規律、入会に関する事項 <input type="checkbox"/> 役員、副、幹事セミナーの設営・運営 <input type="checkbox"/> 議案構築・財政規則に関するセミナーの企画・実施 <input type="checkbox"/> 会員褒賞の企画・実施 <input type="checkbox"/> 褒賞申請の作成（JCI・日本・地区・ブロック） <input type="checkbox"/> （議案上程システム）の調査・研究 <input type="checkbox"/> JCI糟屋の総務支援に関する事項 <input type="checkbox"/> 会員拡大・研修に関する事項 <input type="checkbox"/> 非常災害時における支援に関する事項

事務局長・常務理事・セクレタリー 所務分掌

<b>事務局長</b>	<input type="checkbox"/> 外部団体出向、後援依頼の調査、確認に関する事項 <input type="checkbox"/> 会員名簿、名刺、ネームプレートの作成に関する事項 <input type="checkbox"/> 事務局の運営 <input type="checkbox"/> 常務理事・セクレタリーの統括 <input type="checkbox"/> 災害発生時の支援取りまとめに関する事項 <input type="checkbox"/> JCI北九州との交流に関する事項 <input type="checkbox"/> その他
<b>常務理事</b>	<input type="checkbox"/> 理事長の同行及び所務の補佐 <input type="checkbox"/> 専務理事、事務局長のサポート <input type="checkbox"/> 理事長のスケジュール管理、調整に関する事項 <input type="checkbox"/> 京都会議への参加促進、LOMナイトの設営・実施 <input type="checkbox"/> その他
<b>セクレタリー</b>	<input type="checkbox"/> 理事長の同行及び所務の補佐 <input type="checkbox"/> 京都会議への参加促進、LOMナイトの設営・実施 <input type="checkbox"/> その他



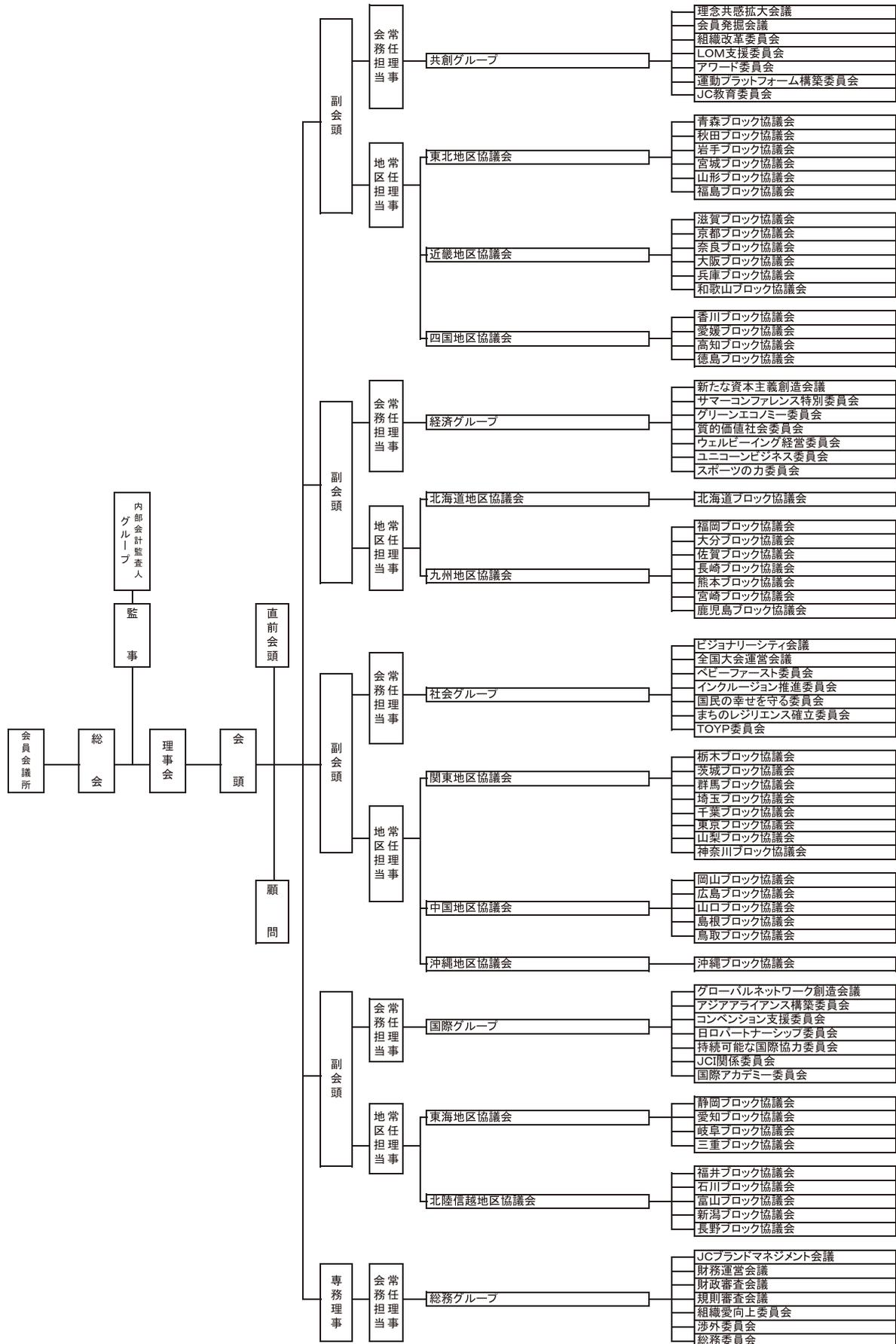
## 青年会議所の概況

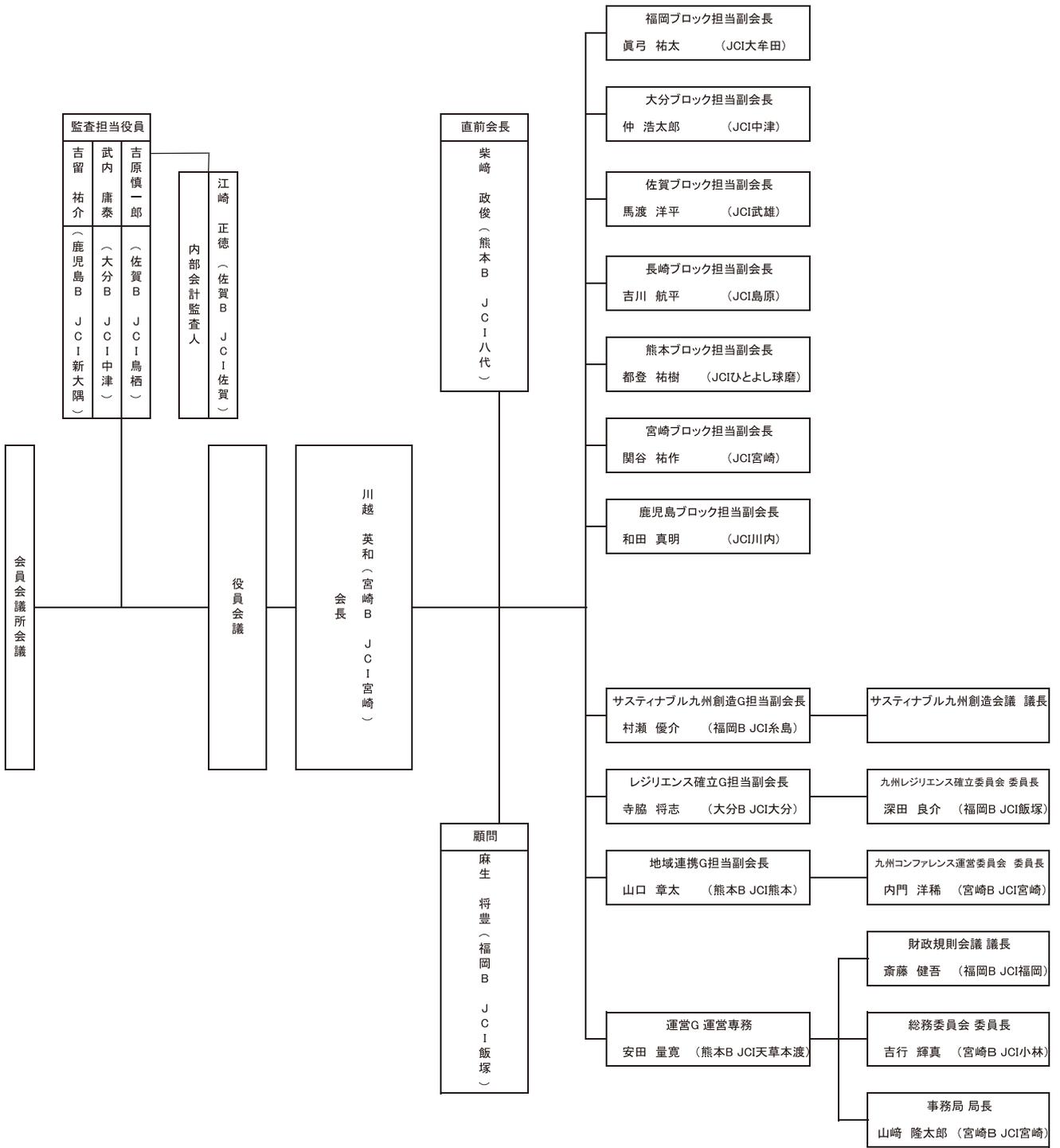
- JCI 加盟国 105 NOMs
- JCI 加盟 JC 数 4,572 LOMs 会員数 149,638 名 < 2020年11月現在 >
- JCI 日本 加盟 JC 数 692 LOMs 会員数 29,122 名 < 2021年10月22日現在 >
- JCI 福岡 会員数 227 名 < 2022年1月1日推定 >
- JCI 福岡 創立関連
  - 《 創 立 年 月 日 》 1953 年 2 月 4 日 《 スポンサー JC 》 JCI 宮崎
  - 《 法人許可年月日 》 1971 年 4 月 24 日
  - 《 一般社団法人  
移行年月日 》 2013 年 10 月 1 日
- スポンサー JC JCI 飯塚、JCI 久留米、JCI 直方、JCI つくし、JCI 糸島、  
JCI 糟屋
- シスター JC JCI 釜山（韓国） 1965 年 4 月 20 日  
※ JCI 下関と共にトリオ JC として姉妹締結  
JCI 城市（香港） 1984 年 11 月 4 日 姉妹締結  
JCI サウスサイゴン（JCI ベトナム）  
2016 年 11 月 1 日 姉妹締結
- 友好 LOM JCI 北九州 2001 年 11 月 21 日 友好 LOM 締結  
JCI 広島 1986 年から毎年、交歓会を開催

# 公益社団法人 日本青年会議所

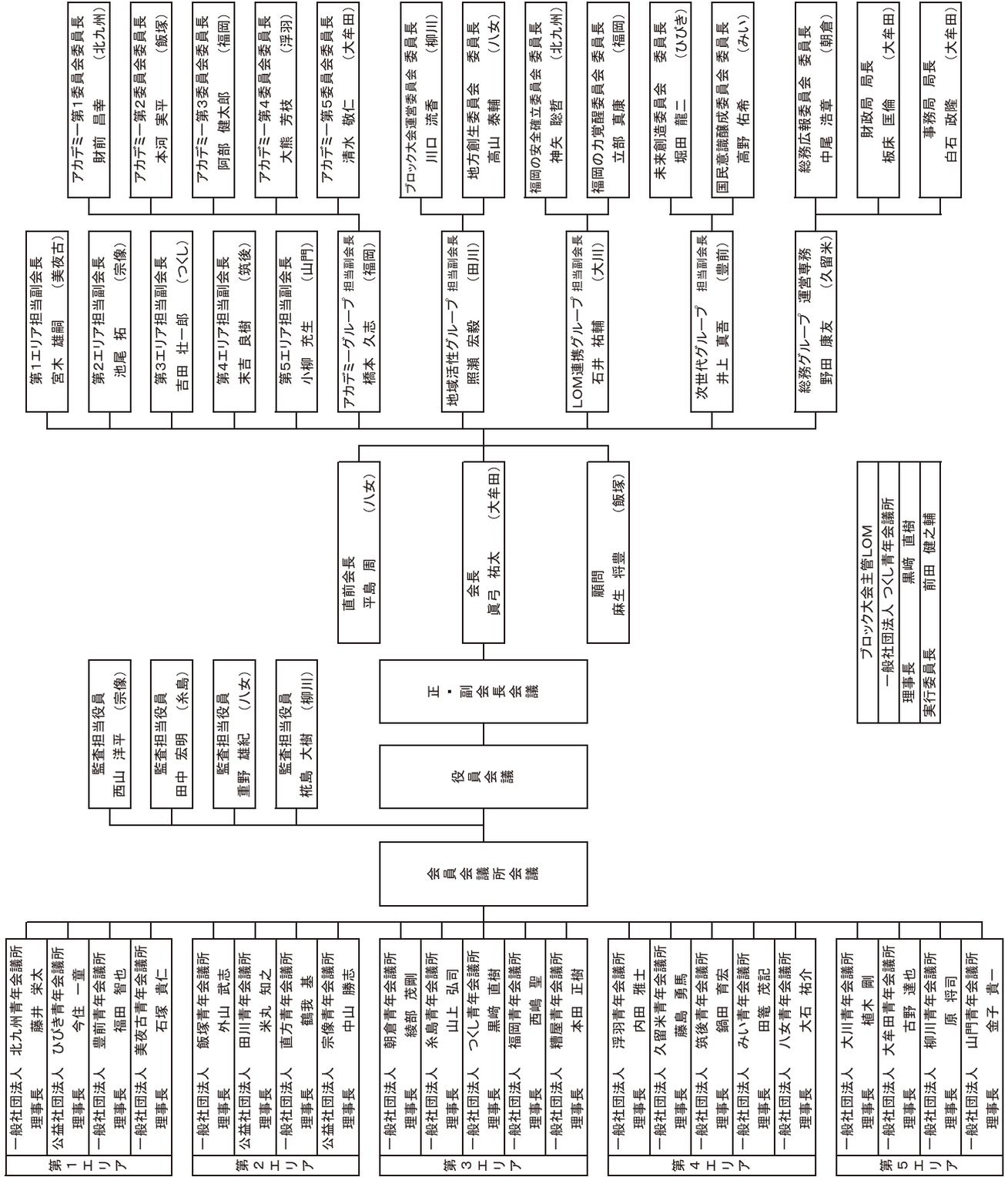
## 2022年度 基本資料

### 組織図





# 2022年度福岡ブロック協議会 組織図



## 福岡青年会議所 歴代理事長

第1期 (1953年 2月~6月)	橋上 保久	第36期 (1988年)	財津 重美
第2期 (1953年7月~ 1954年6月)	橋上 保久	第37期 (1989年)	石坂 博史
第3期 (1954年7月~ 1955年6月)	具島 正二	第38期 (1990年)	真鍋 博俊
第4期 (1955年7月~ 1956年12月)	具島 正二	第39期 (1991年)	小林 専司
第5期 (1957年)	伊藤 剛平	第40期 (1992年)	樺島 逸兵
第6期 (1958年)	高松 光彦	第41期 (1993年)	菅原 正道
第7期 (1959年)	武内 徳夫	第42期 (1994年)	河邊 哲司
第8期 (1960年)	野上 恭敬	第43期 (1995年)	安川 哲史
第9期 (1961年)	坂本 行雄	第44期 (1996年)	松山 政司
第10期 (1962年)	高松 邦彦	第45期 (1997年)	吉松 修
第11期 (1963年)	喜多村辰男	第46期 (1998年)	田中 彰洋
第12期 (1964年)	四島 司	第47期 (1999年)	新町 敦志
第13期 (1965年)	大賀禮太郎	第48期 (2000年)	藤野 利浩
第14期 (1966年)	麻生 純三	第49期 (2001年)	井上 貴博
第15期 (1967年)	久野 桂一	第50期 (2002年)	岩本 仁
第16期 (1968年)	中島 邦補	第51期 (2003年)	廣田 稔
第17期 (1969年)	栗栖健一郎	第52期 (2004年)	井上 博行
第18期 (1970年)	田中丸善司	第53期 (2005年)	宮崎 鐘子
第19期 (1971年)	後藤 隆雄	第54期 (2006年)	小池 勝利
第20期 (1972年)	洞 尚	第55期 (2007年)	富永 太郎
第21期 (1973年)	江口昭八郎	第56期 (2008年)	新開 裕司
第22期 (1974年)	金子 宜嗣	第57期 (2009年)	大村 光
第23期 (1975年)	近江 福雄	第58期 (2010年)	大山 哲寿
第24期 (1976年)	古賀 秀策	第59期 (2011年)	長沼 慶也
第25期 (1977年)	加地 良一	第60期 (2012年)	末松 大和
第26期 (1978年)	富永 恒二	第61期 (2013年)	田川 幸平
第27期 (1979年)	榎本 一彦	第62期 (2014年)	森山 新樹
第28期 (1980年)	冬至 洋一	第63期 (2015年)	中田 泰平
第29期 (1981年)	新川 宏輔	第64期 (2016年)	藤 真臣
第30期 (1982年)	青柳 泰秀	第65期 (2017年)	鈴木 大輔
第31期 (1983年)	熊谷 信治	第66期 (2018年)	田島 敬悟
第32期 (1984年)	福永 周兵	第67期 (2019年)	岩木 勇人
第33期 (1985年)	榎本 正弘	第68期 (2020年)	出田 正城
第34期 (1986年)	中牟田健一	第69期 (2021年)	彌登 義明
第35期 (1987年)	中村 量一		

## 出向外部団体一覧

	団体名
1	NPO 法人 アジア太平洋子ども会議・イン福岡
2	アジア太平洋子ども会議・イン福岡支援の会
3	アジア太平洋子ども会議・イン福岡実行委員会
4	BCIO (Bridge Club International Organization)
5	福岡地域留学生交流推進協議会
6	福岡・US オークランド姉妹都市委員会
7	福岡・広州姉妹都市委員会
8	福岡・ボルドー姉妹都市委員会
9	福岡・NZ オークランド姉妹都市委員会
10	北方領土返還促進福岡県民協議会
11	アビスパ福岡後援会
12	福岡市ごみ減量・リサイクル推進会議
13	一般社団法人 九州市民大学
14	福岡市民の祭振興会
15	福岡市地球温暖化対策市民協議会
16	福岡フィルムコミッション
17	福岡市交通安全推進協議会
18	福岡市自動車交通公害防止計画推進協議委員会
19	犯罪のない安全で住みよいまちづくり推進本部
20	FUKUOKA みらいプロジェクト
21	那珂川水上交通活性化推進協議会
22	福岡城・鴻臚館の将来を市民と考える実行委員会
23	地域司法連絡協議会
24	FUKUOKA Christmas Market 実行委員会
25	福岡マラソン実行委員会
26	アビスパグローバルアソシエイツ (AGA)
27	一般社団法人 九州インターンシップ推進協議会
28	社会福祉法人 野の花学園
29	福岡トライアスロン組織委員会
30	グローバルコミュニティ FUKUOKA 推進プラットフォーム
31	第 19 回 FINA 世界水泳選手権 2021 福岡大会組織委員会
32	第 19 回 FINA 世界水泳選手権 2021 福岡大会実行委員会
33	第 19 回 FINA 世界水泳選手権 2022 福岡大会財務支援委員会
34	福岡市社会福祉協議会第 6 期地域活動計画策定委員会



## 一般社団法人 福岡青年会議所

〒812-0021

福岡市博多区築港本町 13-6 ベイサイドプレイス博多 C棟

TEL: 092-263-6333 FAX: 092-263-6334

13-6, Chikkouhonmachi, Hakataku,

Fukuoka-shi, Fukuoka, 812-0021, JAPAN

PHONE +81-92-263-6333 FAX +81-92-263-6334

<https://www.fukuoka-jc.or.jp/>

E-mail [jci-fukuoka@dream.jp](mailto:jci-fukuoka@dream.jp)